

平成28年度 家庭教育に関する調査研究

テーマ

「家庭教育に関する保護者の意識の実態と
地域における家庭教育支援の在り方」

— 子育て世代の保護者の家庭教育や
地域との関わりに対する調査より—



愛知県教育委員会

平成28年度 家庭教育に関する調査研究 実施計画

1 テーマ

「家庭教育に関する保護者の意識の実態と地域における家庭教育支援の在り方」

— 子育て世代の保護者の家庭教育や地域との関わりに対する調査より —

2 調査目的

就学前から思春期までの子をもつ保護者の、家庭教育や地域との関わりに対する意識や実態をもとに、今後の地域における適切な家庭教育支援の在り方を考え、提案するための資料とする。

3 テーマ設定の理由

近年、都市化や少子化、多様な家族形態、雇用環境の変化等、子育てや家庭教育を取り巻く環境が変動する中で、国や地域において様々な家庭教育支援に関する施策や事業が展開されている。しかし、児童虐待やいじめ・不登校、ひきこもり等の問題は依然深刻で、子育て世代の保護者がゆとりをもって楽しみながら子育てができているとはいえない状況にある。

平成25年度に実施した本県の家庭教育調査では、「しつけのことで悩んでいる」「子育てに悩んでいる」といった保護者が7割と多く見られた。さらに、家庭教育についての学習機会に望む内容では、「子どもの心理・性格形成」「子どものしつけの仕方」「親の子どもへの接し方」と多義にわたっており、多くの保護者が悩みを抱えながら子育てに取り組んでいる様子が伺われた。

一方、「我が子に対して地域活動や地域行事に参加するように促す」という家庭が1割に満たない、「子育ての悩みを誰にも相談せずに自分で対処する」という保護者が増加傾向にあることから、保護者の中には、社会とのつながりを重要視せず、孤立化する傾向にあることが危ぶまれた。また、あまりにも多くの情報が溢れ、正しい判断に迷ったり、マニュアル通りの子育て論に縛られて、育児ノイローゼに陥ったりする保護者も少なくない。

このような現状を踏まえ、保護者が主体的に学んだり交流を深めたりする機会の充実を図るなど、家庭教育に対するきめ細やかな支援を地域住民でアイデアを出し合い、手を携え合いながら行っていく姿勢が一層大切になっていくと考える。

そこで、本テーマを設定し、本県が実施している家庭教育支援の在り方を見直し、今後の施策を考える参考資料とするための調査を実施することとした。

4 調査計画

- ・ 調査研究の実実施計画の検討 第1回家庭教育企画委員会 (4月28日)
- ・ 調査項目の検討 家庭教育企画委員や県総合教育センター担当との情報交換 (5月～7月)
- ・ 調査対象者の選出 課内・各教育事務所担当者と検討 (7月～8月)
- ・ 調査項目の検討・決定 第2回家庭教育企画委員会 (9月6日)
- ・ 調査実施 県内の園の年長児・小学校2年生・小学校6年生
・ 中学校3年生の保護者 (9月26日～10月3日)
- ・ 統計処理 県総合教育センター (10月中旬～下旬)

- ・ 調査結果第一次分析 生涯学習課 (10月下旬～11月中旬)
- ・ 調査結果第二次分析 家庭教育企画委員 (11月下旬～12月中旬)
- ・ 調査結果最終分析 第3回家庭教育企画委員会 (1月17日)
- ・ 「家庭教育資料」印刷・配布 生涯学習課 (平成28年度末)

5 調査概要

(1) 調査対象 2,713人 (回収率90.4%)

今回の調査は、幼稚園・こども園の年長児・小学校2年生・小学校6年生・中学校3年生の保護者を対象に調査を行う。それぞれの立場の人の意識や思いを比較考察しやすいように配慮する。

対象者	内 訳 (人数)				
保 護 者	園の年長児	小学校2年生	小学校6年生	中学校3年生	無答
2,713人 (割合)	581人 (21.4%)	686人 (25.3%)	702人 (25.9%)	701人 (25.8%)	43人 (1.6%)

(参考)

対象者	内 訳 (年代別の人数)						
保 護 者	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	無答
2,713人 (割合)	18人 (0.7%)	72人 (2.7%)	1,042人 (38.4%)	1,485人 (54.7%)	64人 (2.4%)	9人 (0.3%)	23人 (0.8%)

(参考)

対象者	内 訳 (家族構成別の人数)			
保 護 者	親と子	親子と祖父母の三世代家族	その他	無答
2,713人 (割合)	2,170人 (80.0%)	446人 (16.4%)	40人 (1.5%)	57人 (2.1%)

(2) 調査期間

平成28年9月26日～10月3日

(3) 調査方法

質問紙法 マークカードによる回答処理

(4) 統計処理

県総合教育センター情報教育研究室

(5) 調査項目

① プロフィール (5項目)

保護者の立場、年齢、家族構成、家庭教育支援経験の有無

② 家庭教育の様子 (8項目)

家庭教育支援の活用内容や状況、活動支援(参加)の動機

教育・子育てに関する情報源 近所づきあいの様子 取りまく環境についての考え

③ 家庭での教育や子育てに関する考え方 (3項目)

家庭教育に関わる上で大切にしたいこと、知りたいこと

家庭での教育(子育て)の場面で大切にしたい時

④ 地域による支援に関する考え (7項目)

家庭の教育力を高める方法 学習機会・子育て支援への要望・展望

家庭教育支援への協力について

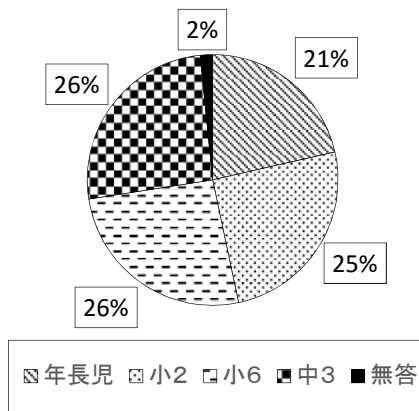
平成28年度 家庭教育に関する調査研究結果の概要

I プロフィール（問1～5）

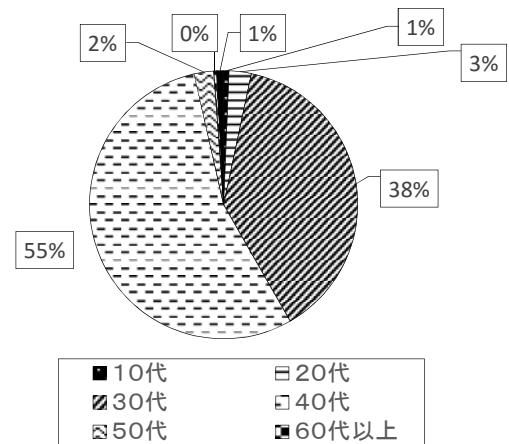
この調査は、就学前から思春期までの子をもつ保護者の、家庭教育や地域との関わりに対する意識をもとに、今後の地域における適切な家庭教育支援の在り方を考え、提案する資料とするためのものである。そこで、県内の幼稚園・こども園の年長児、小学校2年生、小学校6年生、中学校3年生の保護者を対象にアンケートによる調査を実施した。

<回答者のプロフィール>

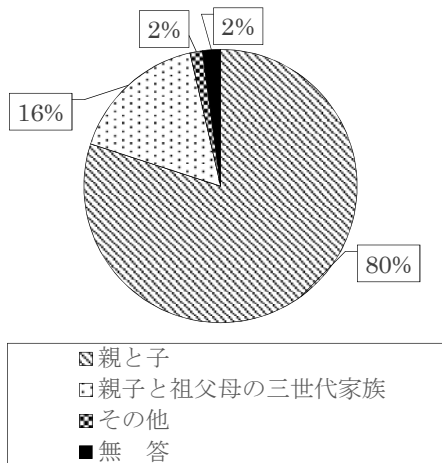
① お子さんの年齢・学年



② 回答者の年代(年齢)



③ 回答者の家族構成

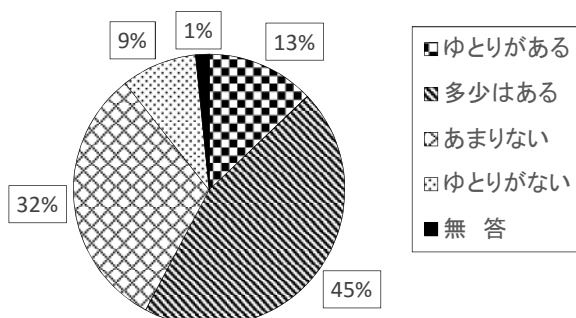


グラフ①より、子どもの年齢の人数差の割合は4.5%以内であり、年齢間の大きな偏りはなかった。

グラフ②より、回答者のほとんどが30代～40代の保護者であった。

グラフ③より、多くの回答者が核家族であることがわかった。

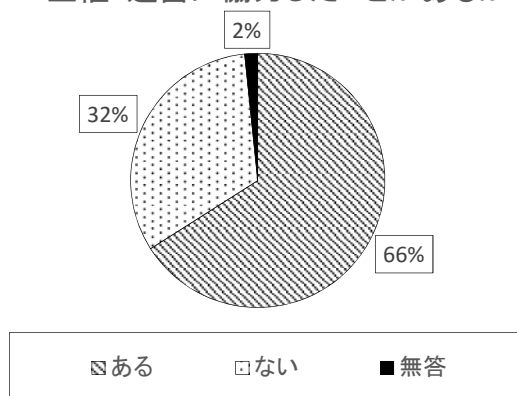
④ 生活に、どの程度時間的なゆとりを感じているか



グラフ④より、回答者の約58%が、「時間的なゆとりがある」「多少はある」と感じている。

反対に回答者の9%が、「時間的なゆとりがない」と感じている。

⑤ 地域における家庭教育支援活動への
主催・運営に協力したことがあるか



グラフ⑤より、回答者の66%が、今までに地域における家庭教育支援活動への主催・運営に携わったことがあり、回答者の32.4%が携わったことがないと回答している。

II 家族での教育の様子（問6～21）

<「子どもに身につけさせたいこと」に対する悩み>

保護者全体の約70%が、「子どもに身につけさせたいこと」に対して悩みを抱えており、悩みの内容は、「家庭での学習」「友達・仲間関係」「礼儀作法・マナー・言葉遣い」の割合が高い。

また、年長児をもつ保護者は、「友達や仲間関係」「礼儀作法・マナー・言葉遣い」、小学校2年生、小学校6年生、中学校3年生の子をもつ保護者は、「家庭での学習」について悩みをもつ割合が高く、特に、中学校3年生の子をもつ保護者にその傾向が顕著に表れている。

時間的なゆとりがあると感じている保護者は、「礼儀作法・マナー・言葉遣い」「友達や仲間関係」を、時間的なゆとりがないと感じている保護者は、「ゲーム・携帯電話・インターネットの使い方」を多くあげている。

<「保護者としての立場」からの悩みや不安>

保護者全体の約54%が、「保護者としての立場」からの悩みや不安を抱えており、悩みや不安の内容は、「子育てに十分な時間がとれない」「しつけの仕方がわからない」の割合が高い。

また、年長児をもつ保護者は、「しつけの仕方がわからない」「忙しい時に子どもの面倒を見てくれる人がいない」、小学校2年生や小学校6年生の子をもつ保護者は、「子育てに十分な時間がとれない」、中学校3年生の子をもつ保護者は、「子どもの気持ちがわからない」について悩みをもつ割合が、他の学年よりも高い傾向が見られ、先のアンケート項目（「子どもに身につけさせたいこと」に対する悩み）と同様に、子どもの発達段階に応じて保護者の悩みや不安の内容が変化していくことがわかる。

時間的なゆとりがあると感じている保護者は「あまり悩みや不安をもたない」割合が高い。反対に時間的なゆとりがあまりない・ないと感じている保護者の

70%以上は、「悩みや不安をもっている」と回答し、悩みや不安の内容で最も割合が高いのは、「子育てに十分な時間がとれない」（約42%）である。このことから、子どもと関わる時間がなかなか取れないことが、保護者としての不安につながっていると判断できる。

保護者向けの学習の機会を設定する際、子どもの発達段階に応じた悩みと解決策を取り上げると同時に、「悩みをもつのは自分だけではない」「みんな悩みながら子育てをしている」という思いを共感し合える場の工夫が大切である。

また、時間的なゆとりがないと感じている保護者が、気軽に相談できる場を身近につくるとともに、安心して子どもを預けることができる居場所を地域につくることは重要である。

<保護者が悩みを解決するためにどのような方法をとっているか>

子どもの年齢に関係なく「家族」に相談する割合が高く、次に「身内」、「友人、知人」と続く。

時間的なゆとりがないと感じている保護者は、少しではあるが、「職場の人」への相談の割合が他の保護者より高い。子育てに対して職場の理解を深めることができる啓発活動の展開や、職場における家庭教育に関する学習機会の積極的な提供が必要である。

<今までに、地域におけるどのような家庭教育支援活動に参加したことがあるか>

時間的なゆとりの有無に関係なく、「子ども会行事」「フェスティバルやまつり」への保護者の参加度は高い。

また、今までに地域における家庭教育支援活動への主催・運営経験のある保護者の約45%は、「子ども会行事」へ参加したことがあると回答し、主催・運営経験のない保護者の約30%は「フェスティバルやまつり」に参加したことがあると回答している。

さらに、保護者としての悩みの有無に関係なく、17~20%の保護者は、「地域支援活動へ参加したことはない」と回答している。

多様な価値観をもつ保護者に対して提供する学習機会の在り方について検討が必要である。また、参加率の高い「子ども会行事」「フェスティバルやまつり」の機会を利用して、保護者への家庭教育（子育て）に関する情報提供を図っていくことは有効であると考えられる。

<地域における家庭教育を支援する事業の情報をどのように入手するか>

時間的なゆとりの有無や、今までの地域支援活動への経験の有無にかかわらず、「広報」や「地域の回覧」と回答する保護者が多い。

「広報」や「地域の回覧」は地域の発信源として重要であることがわかる。家庭教育に関するヒントとなる情報を連載するなど、「広報」や「地域の回覧」をより魅力的なものにする工夫やチラシ等の配付・回覧の仕方を見直すことは大切である。

さらに、時間的なゆとりがないと感じている保護者が、ニーズに合った情報を得やすいように、インターネット等で検索しやすいような内容や掲載の仕方を工夫することも重要である。

Ⅲ 家庭での教育や子育てに関する考え方（問22～29）

<家庭での教育で大切だと思うこと>

「基本的生活習慣」（約34%）、「思いやりやいたわりの心」（約23%）、「家族のふれ合いや家族の心のつながり」（約17%）の順で、保護者の割合が高い。

<家庭教育について知りたい情報>

年長児をもつ保護者は、「子どものほめ方、しかり方」について、小学校2年生、小学校6年生、中学校3年生の子をもつ保護者は、「子どもの対人関係・学校生活」についての情報を欲する割合が高い。

時間的なゆとりの有無に関わらず、「子どもの対人関係・学校生活」「子どものほめ方・しかり方」と回答した保護者が多い反面、「子どもの性」や「子どもとのコミュニケーションのとり方」についての情報を欲する保護者は少ない傾向が見られる。

<家庭において、子どもと大切にしたい時間>

過半数の保護者が「食事をする時」を大切にしたい時間であると回答している。年齢別でみると、中学校3年生の子をもつ保護者の60%以上が「食事をする時」をあげており、他の保護者よりも割合が高い。

家庭において「基本的生活習慣」を身につけさせることや「食事の時間」を大切にしていることがわかる。日常生活において「基本的生活習慣」を身につけさせる場面や子どもと過ごす「食事の時間」を想定しながら、子どもとの関わり方を学び合えるような学習機会を設定することが、保護者の主体的な学びにつながると考える。

IV 地域による支援に関する考え方（問30～40）

<地域における家庭教育を学習する機会への参加希望の有無>

「機会があったら参加したい、できれば参加したい」と思っている保護者は全体の約53%存在する。

また、時間のゆとりがないと感じている保護者の約50%は、時間が許せば地域での学習機会に参加したいと思っていることがわかる。

「地域において家庭教育を学習する機会」があったら、「子どもの自立心の育て方」「子どもの社会性や道徳性の育て方」「子どもの友達・仲間関係」といった内容に参加したいと思う保護者の割合が高い。

「地域において、家庭教育を学習する機会があった時に重要視すること」については、保護者の約55%が「開催時間や曜日」と回答している。

忙しい中でも、家庭教育について学びたい気持ちがあることがわかり、家庭教育についての啓発活動を身近な場所で展開していくことは意義がある。

多くの保護者が参加しやすく、効果的な学習機会とするために、保護者のニーズに応じた「開催時間や曜日」を考慮して機会を設定するとともに、多くの保護者は「子どもの自立心の育て方」への関心が高いため、子どもの自立心に関わる内容を取り入れる必要がある。

<地域において希望する家庭教育支援活動の内容>

「子どもが安心・安全に過ごせる場所」「子との交流入りの講座や研修会」を望む保護者の割合が、どの学年（年齢）の子をもつ保護者においても高い。

また、子どもに身につけさせたいことや、保護者としての立場からの悩みを多く抱えている保護者は、「身近で気軽に立ち寄れる場所や機会」を望む割合が高い。

さらに、地域における家庭教育に関する学習をしたいと思っている保護者は、「子との交流入りの講座や研修会」「保護者向けの講座や研修会」を強く希望していることがわかる。

<今後、地域における家庭教育支援を手伝ったり協力したりして、地域のために活動をしたいと思うか>

約36%の保護者が「思う」と答えており、子どもの年齢が上がるにつれて多くなっている。また、地域での活動の企画・運営経験のある保護者の約43%が、将来、地域支援活動へ携わることへの希望があり、前向きに思っていることがわかる。

「今後、地域における家庭教育支援を手伝ったり協力したりして、地域のた

めに活動をしたいと思う理由」で、一番多いのは「過去に地域でお世話になったので自分のできることをしたい」である。

反対に、全体の約60%の保護者が「今後、地域における家庭教育支援を手伝ったり協力したりして、地域のために活動をしたいと思わない」と答えている。

「今後、地域における家庭教育支援を手伝ったり協力したりして、地域のために活動をしたくないと思う理由」の多くは、「時間にゆとりがないこと」であるが、子どもの年齢が上がるにつれて減少している。また、時間にゆとりのある保護者の中には、「何をしたいのかわからない」「心にゆとりがない」と感じている割合が高いことがわかる。

アンケート結果より、「過去に地域でお世話になった経験が、自分も地域のためにできることをしたいという思いにつながる」ことがわかる。

言い換えると、子どもが小さい時から「地域が家庭を積極的に支援する」ことで、保護者の意識は少しずつ地域に向くようになると考える。また、子どもが小さい時から「保護者に対して地域でどのように関わっていけばよいかを情報提供する」ことで、地域の中で子どもが育つ環境をつくるといった地域活動のイメージがつかみやすくなり、地域参加を促すことができると考える。

一方では、保護者が生活していく上で心のゆとりがもてるよう、身近で気軽に立ち寄れる場所や学びの機会を設定したり、職場において家庭教育を支援する環境づくりの大切さを啓発したりすることも必要となる。

さらに、保護者が地域において支援を受けたり支援活動に参加したりしながら仲間を増やすことで、家庭教育の支援活動を支える側にまわられるような体制づくりを考えることも重要である。

地域の教育力を向上させていく上でも「地域で育ちあう、育てあう」といった具体的な手立てを考えていくことは、今後の大きな課題である。

I 回答者のプロフィール

問1 お子さんの年齢・学年

	人数 (人)	割合 (%)
幼稚園年長児	581	21.4
小学校2年生	686	25.3
小学校6年生	702	25.9
中学校3年生	701	25.8
無答	43	1.6
合計	2713	100.0

問2 回答者の年代 (年齢)

	人数 (人)	割合 (%)
10代	18	0.7
20代	72	2.7
30代	1042	38.4
40代	1485	54.7
50代	64	2.4
60代以上	9	0.3
無答	23	0.8
合計	2713	100.0

問3 回答者の家族構成

回答者	人数 (人)	割合 (%)
親と子	2170	80.0
親子と祖父母の 三世代家族	446	16.4
その他	40	1.5
無答	57	2.1
合計	2713	100.0

- ◆全体の約58%の保護者が、時間的なゆとりがある、多少あると感じている。
 全体の9%の保護者が、時間的なゆとりがないと感じている。

問4 生活に、どの程度時間的なゆとりを感じているか。

	人数 (人)	割合 (%)
ゆとりがある	350	12.9
多少はある	1217	44.9
あまりない	858	31.6
ゆとりがない	245	9.0
無答	43	1.6
合計	2713	100.0

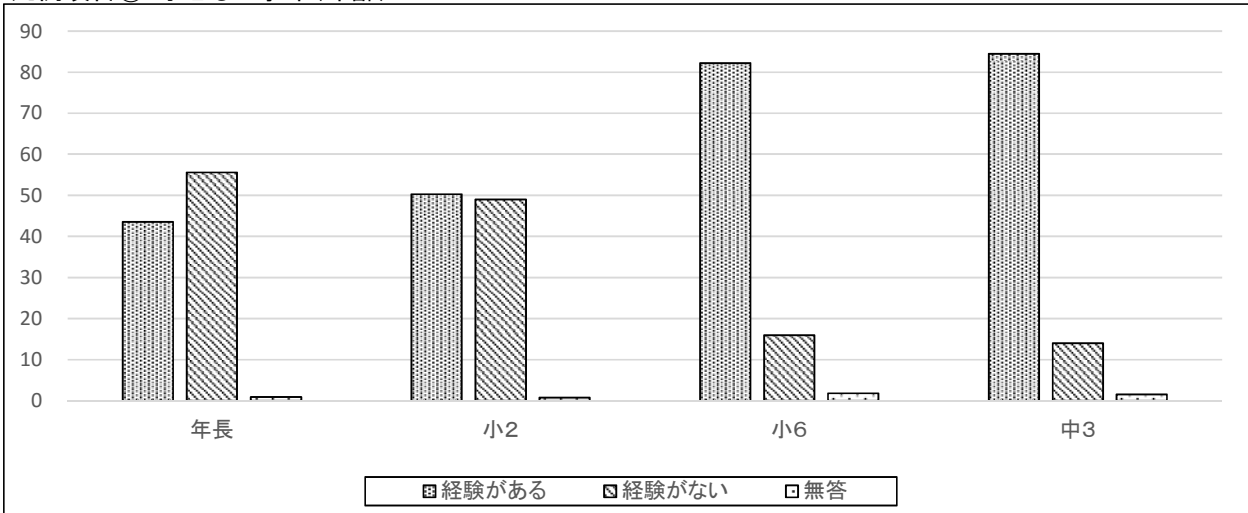
◆【地域における家庭教育支援活動への企画・運営に協力したことがあるか】

→保護者の66%が、今までに地域における家庭教育支援活動への企画・運営に携わったことがある。

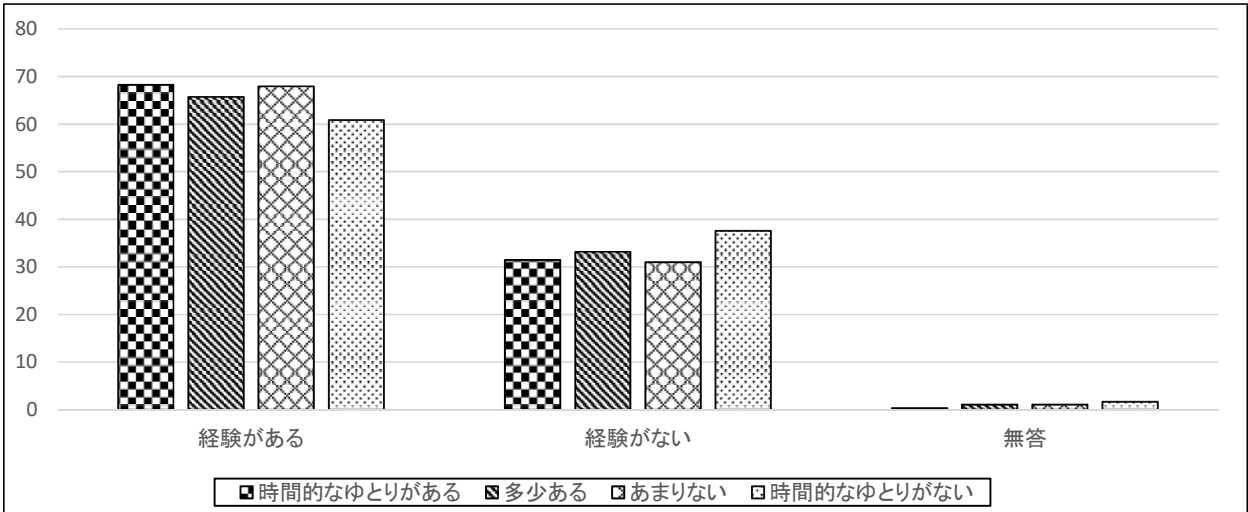
問5 今までに、地域において家庭教育を支援する活動を企画・主催したり、運営に協力したりしたことがありますか。

	人数（人）	割合（％）
ある	1790	66.0
ない	878	32.4
無 答	45	1.7
合 計	2713	100.0

凡例項目①：子どもの学年(年齢)



凡例項目②：時間的なゆとりの有無



<考察>

①子どもの学年(年齢)

・中学校3年生の子をもつ保護者の66%以上が、地域における家庭教育支援活動への企画・運営に協力したことがあると回答しており、ほとんどの保護者が義務教育を終えるまでに何らかの形で「地域における家庭教育支援活動への企画・運営」に携わっている。

②時間的なゆとり

・時間的なゆとりの有無に関わらず、66%以上の保護者が地域における家庭教育支援活動への企画・運営の「経験がある」と回答している。

→時間的なゆとりがない保護者でも協力できるよう、家庭教育支援のあり方を工夫して、参加しやすい状況をつくる必要がある。

Ⅱ 家庭での教育の様子

◆【子育てに日常的にかかわっているのはだれか】
→子育てに日常的にかかわっているのは、母親が多い。

問6 子育てに、日常的にかかわっている人はだれですか。

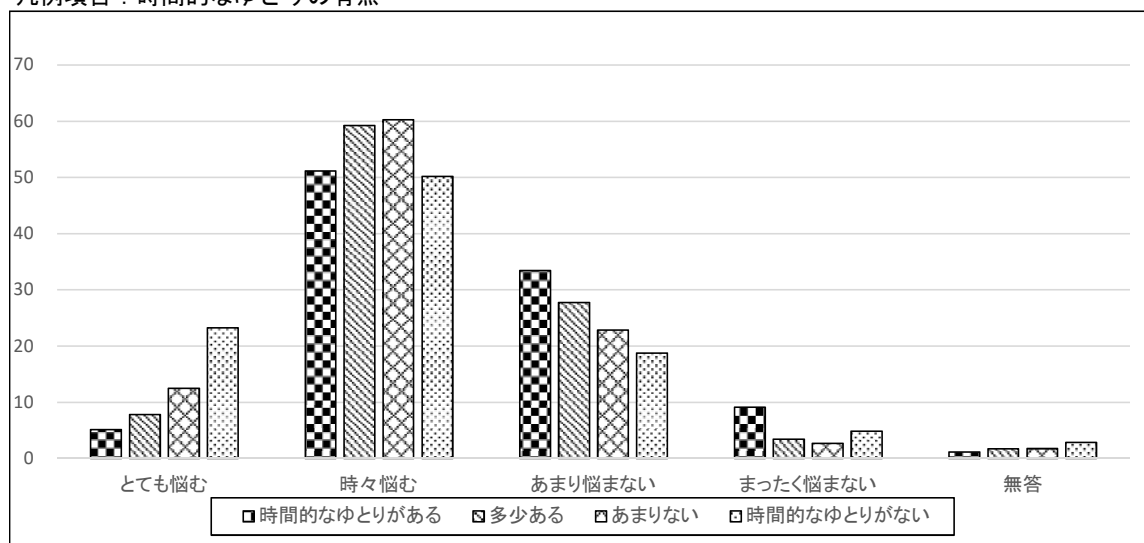
	人数（人）	割合（％）
父母共に	1033	38.1
もっぱら母親	1291	47.6
もっぱら父親	20	0.7
祖父母	36	1.3
両親と祖父母	267	9.8
その他	20	0.7
無答	46	1.7
合計	2713	100.0

◆【子どもに身につけさせたいことでの悩みがあるか】
→保護者全体の約70%が、「子どもに身につけさせたいこと」に対して悩みを抱えている。

問7 お子さんに身につけさせたいことで悩んでいることがありますか。

	人数（人）	割合（％）
とても悩んでいる	280	10.3
ときどき悩む	1560	57.5
あまり悩んでいない	700	25.8
まったく悩んでいない	112	4.1
無答	61	2.2
	2713	100.0

凡例項目：時間的なゆとりの有無



<考察>

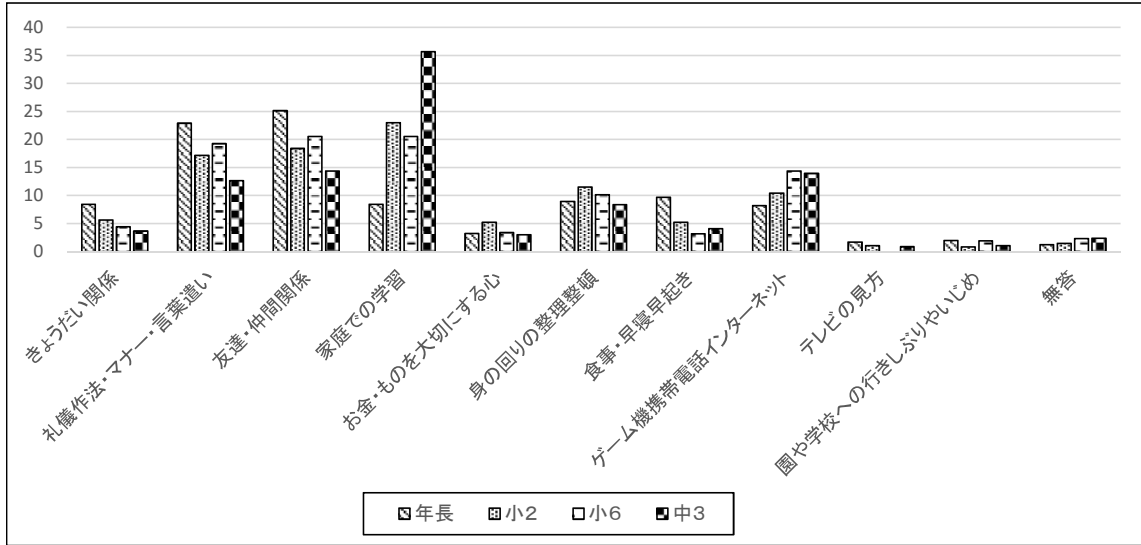
- 保護者全体の約70%が、「子どもに身につけさせたいこと」に対して悩みを抱えている。
→「悩みをもつのは自分だけではない」「みんな悩みながら子育てをしている」ということを感じ取れる場を設定する必要がある。
- 時間的にゆとりがある保護者は、「子どもに身につけさせたいこと」に対してあまり悩まない・まったく悩まない割合が時間的にゆとりがない保護者に比べて高い。
- 時間的にゆとりがない保護者の約73%は、子どもに身につけさせたいことに対して悩んでいることがわかる。
→子育てに時間的なゆとりがもてていないことによる不安が、子育ての悩みにつながっていると判断できる。
研修会や交流会を設けても、必要としている保護者が参加できない状況が考えられるため、「短時間で」「身近で」学べる場の設定を考える必要がある。

◆【子どもに身につけさせたいことで悩んでいること】

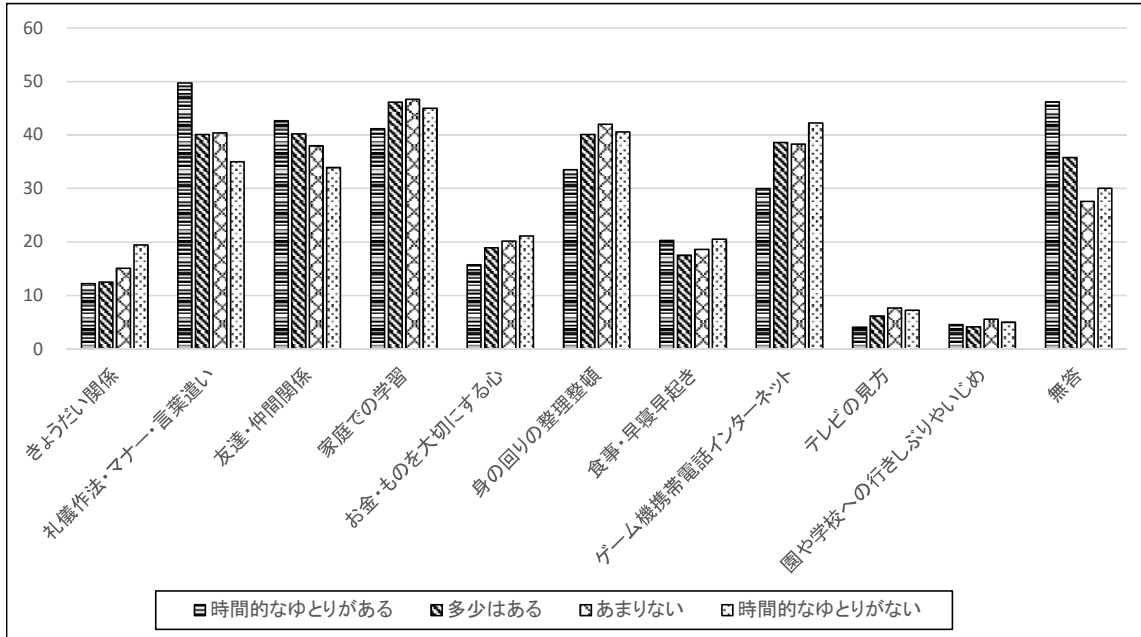
→保護者全体では、子どもに身につけさせたいことで「家庭での学習」「友達・仲間関係」「礼儀作法・マナー・言葉遣い」の順で、悩んでいることがわかる。

問8～10 「問7」で「とても悩んでいる」「ときどき悩むことがある」と答えた人にうかがいます。どのようなことで悩んでいますか。

凡例項目①：子どもの学年(年齢)



凡例項目②：時間的なゆとりの有無



<考察>

①子どもの学年(年齢)

・年長児をもつ保護者は、「友達や仲間関係」「礼儀作法・マナー・言葉遣い」、小学校2年生、小学校6年生、中学校3年生の子をもつ保護者は、「家庭での学習」について悩みをもつ割合が高く、特に、中学校3年生の子をもつ保護者に顕著である。

→子どもの発達段階に応じて、保護者の悩みの質が変化していくことがわかる。

保護者向けの学習機会においては、子どもの発達(学年)段階に応じた悩みとその解決策を取り上げていくことが大切である。

②時間的なゆとりの有無

・時間的なゆとりがあると感じている保護者は、「礼儀作法・マナー・言葉遣い」を一番多くあげている。次に多い悩みとして、「友達や仲間関係」をあげている。

・時間的なゆとりがないと感じる保護者の子どもに対する悩みは、「家庭での学習」「ゲーム・携帯電話、インターネットの使い方」「身の回りの整理整頓」が多くあげられ、基本的な生活習慣について気にしていることがわかる。

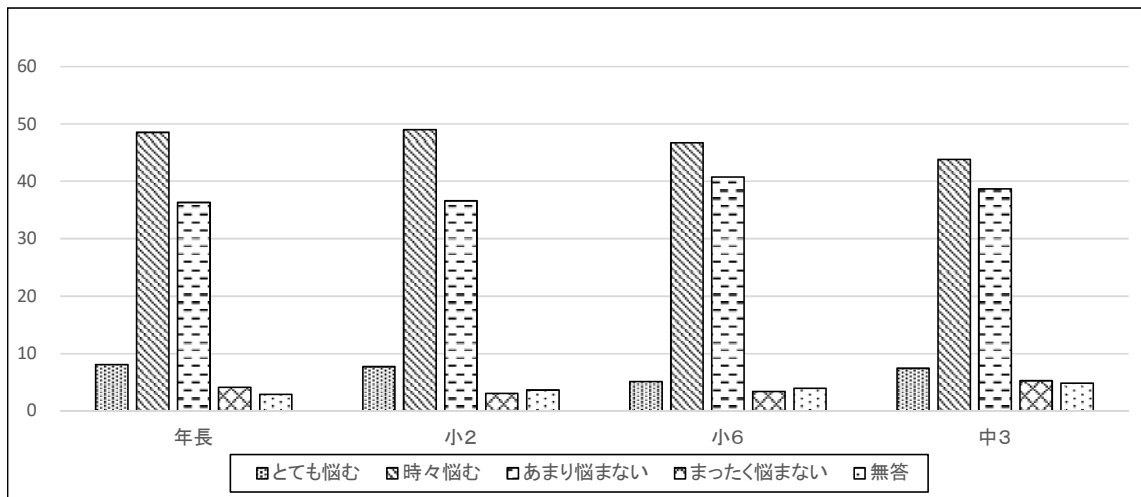
・「園や学校への行きしぶりやいじめ」の割合は少ないが、事の重大性という点では看過できず、その解決にはクラスメイトの協力も重要になるので、できるだけ多くの保護者や園・学校関係者に考える機会をもってもらうことが望ましいと考える。

◆【保護者としての立場からの悩みや不安があるか】
 →保護者全体の約54%が、「保護者としての立場」に対して悩みを抱えている。

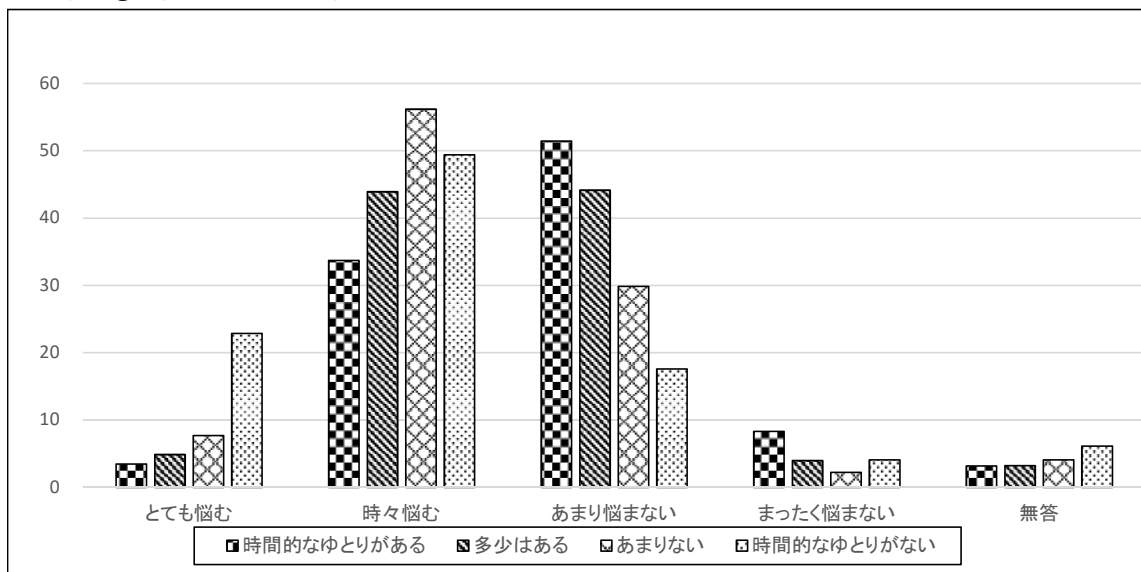
問11 保護者としての立場からの悩みや不安がありますか。

	人数（人）	割合（％）
とても悩んでいる	193	7.1
時々悩む	1268	46.7
あまり悩まない	1029	37.9
まったく悩まない	109	4.0
無 答	114	4.2
	2713	100.0

凡例項目①:保護者としての立場からの悩みや不安の有無



凡例項目②:時間的なゆとりの有無



<考察>

①子どもの学年(年齢)

・子どもの年齢に関係なく、50%以上の保護者が悩みを抱えている。

②時間的なゆとりの有無

・時間にゆとりがある保護者の60%近くが、保護者としての立場からの悩みや不安に対して「あまり悩まない・まったく悩まない」と答えている。「時間にあまりゆとりがない・ゆとりがない」保護者の70%以上が、「時々悩む・とても悩む」と答えている。

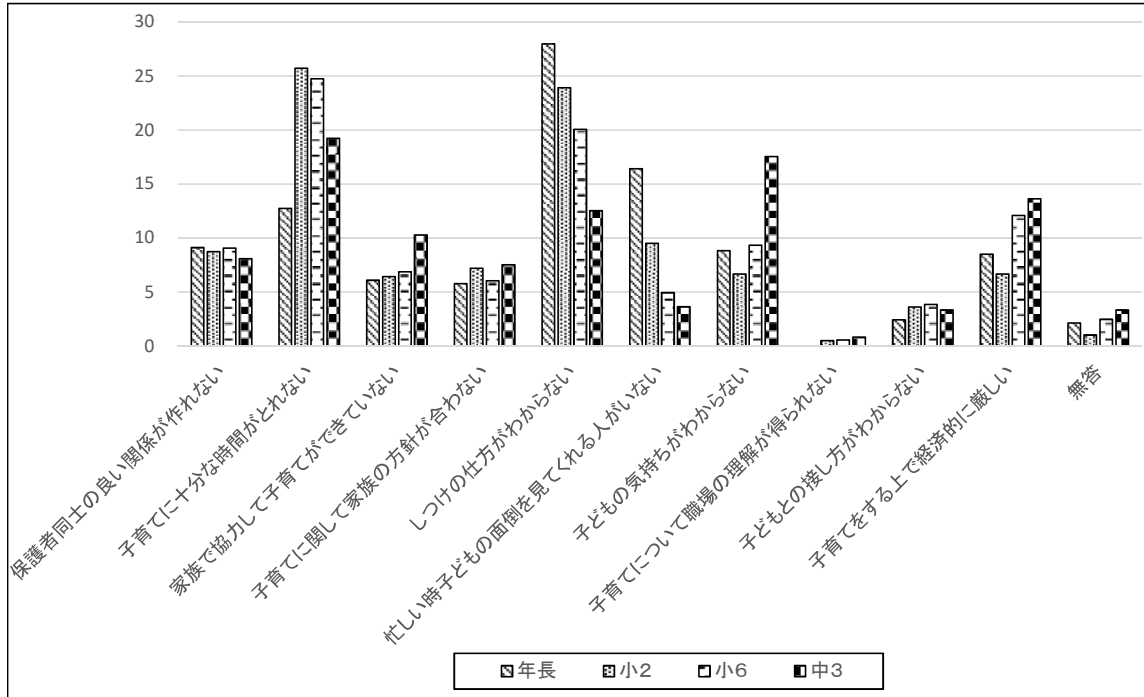
→多くの悩みを抱える時間的なゆとりのない保護者への支援策を検討していく必要がある。

◆【保護者としての立場からの悩みや不安の内容】

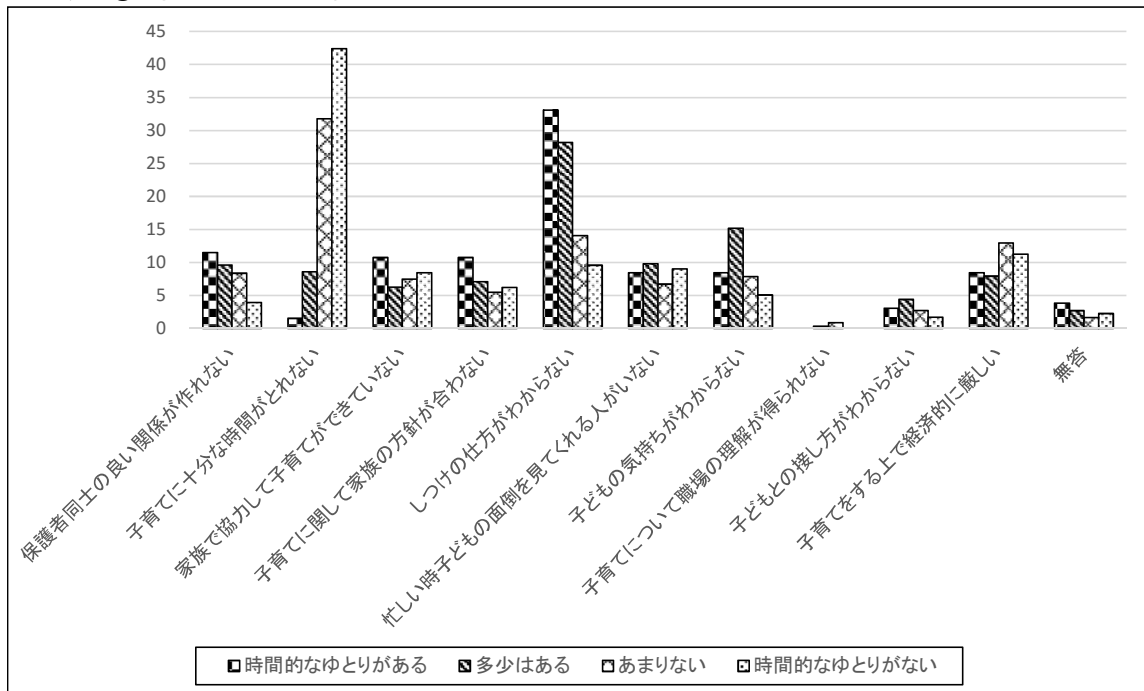
→悩みや不安の内容としては、「子育てに十分な時間がとれない」「しつけの仕方がわからない」の割合が高い。

問12～14「問11」で「とても悩んでいる」ときどき悩むことがある」と答えた人にうかがいます。どのようなことで悩んでいますか。

凡例項目①：子どもの学年(年齢)



凡例項目②：時間的なゆとりの有無



<考察>

①子どもの学年(年齢)

・年長児をもつ保護者では、30%近くの保護者が「しつけの仕方がわからない」ことに悩んでおり、「忙しい時子どもの面倒を見てくれる人がいない」が次に多い。小学校2年生や小学校6年生の子をもつ保護者は「子育てに十分な時間がとれない」ことが一番の悩みだと回答をしている。中学校3年生の子をもつ保護者は、「子どもの気持ちがわからない」という点について悩みをもつ割合が他の学年よりも多い傾向が見られる。
→子どもの年齢に応じた研修が必要である。

②時間的なゆとりの有無

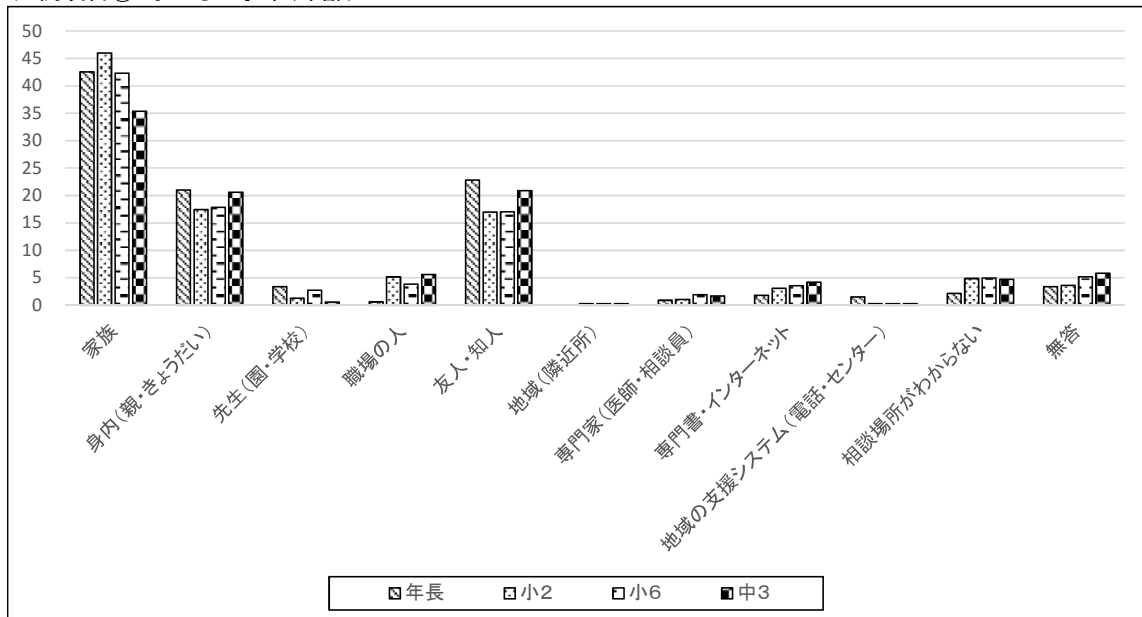
・時間的なゆとりがないと感じる保護者の約42%は、「子育てに十分な時間がとれない」ことに悩んでいる。
・時間的なゆとりがある・多少あると感じている保護者は、「しつけの仕方がわからない」ことを一番の悩みにあげている。
→時間にゆとりがない保護者が気軽に相談できる場を身近につくるとともに、安心して子どもを預けることのできる居場所を地域につくることが大切である。

◆【悩みを解決するための方法】

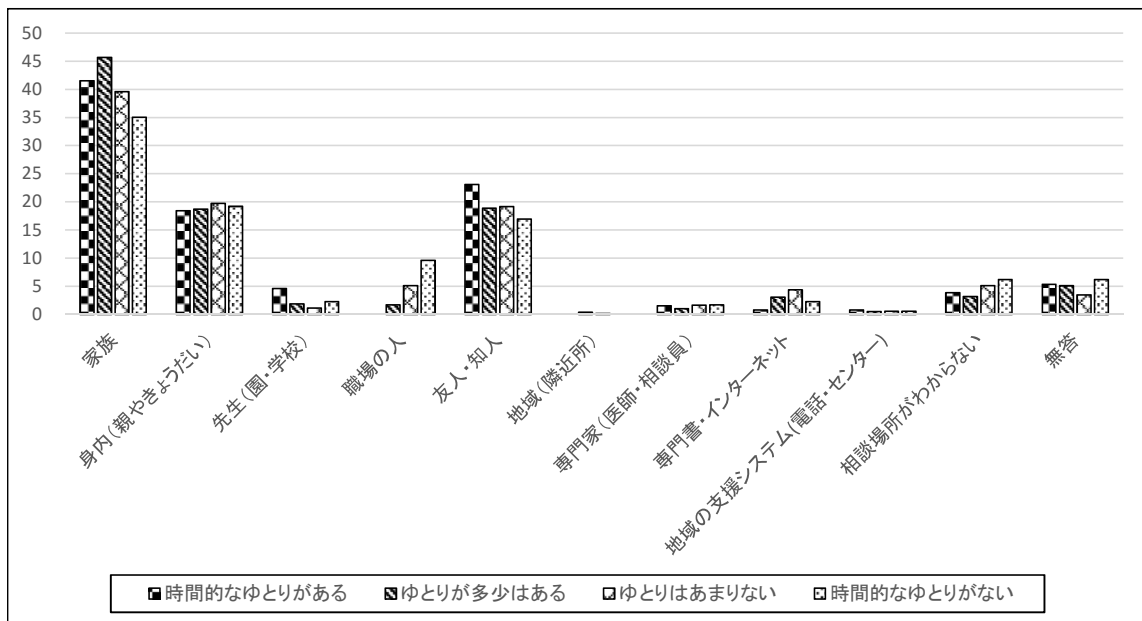
→全体では、「家族」「友人・知人」「身内」に相談する保護者が多い。反対に、「隣近所」に相談する人は、ほとんどいない。また、「どこに相談したらよいのかわからない」保護者が約5%存在する。

問15～17「問11」で「とても悩む」「時々悩む」と答えた人にうかがいます。問12～14の悩みを解決するために、どのような方法をとっていますか。

凡例項目①：子どもの学年(年齢)



凡例項目②：時間的なゆとりの有無



<考察>

①子どもの学年(年齢)

- ・子どもの年齢に関係なく「家族」に相談する保護者が多い。
- ・「隣近所」に相談する人は、ほとんどいない。
→地域で子どもを育てるという意識の啓発や、そのための組織づくりが求められる。

②時間的なゆとりの有無

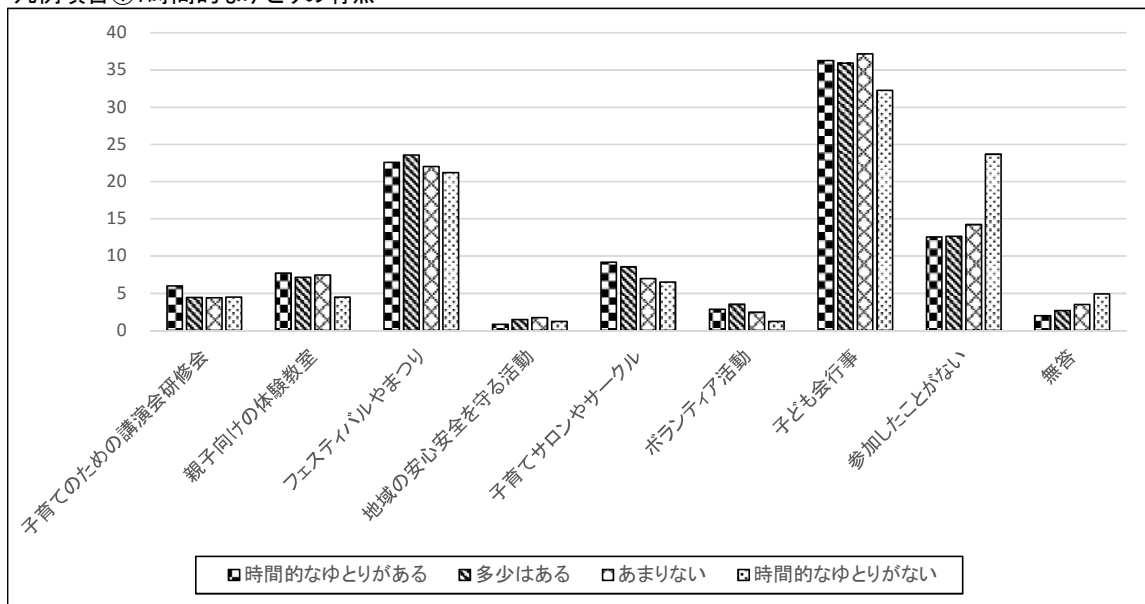
- ・時間的なゆとりがない保護者は、少しではあるが「職場の人」への相談の割合が、他の保護者より高い。
→家庭教育についての啓発活動を職場で展開し、職場の中に子育てについて相談できる人を増やしたり、できるだけ子育ての時間を確保できるようにしたりするなど、子育てに対する職場の理解を深める働きかけが大切になると考えられる。

◆【今までの、地域における家庭教育支援活動への参加内容】

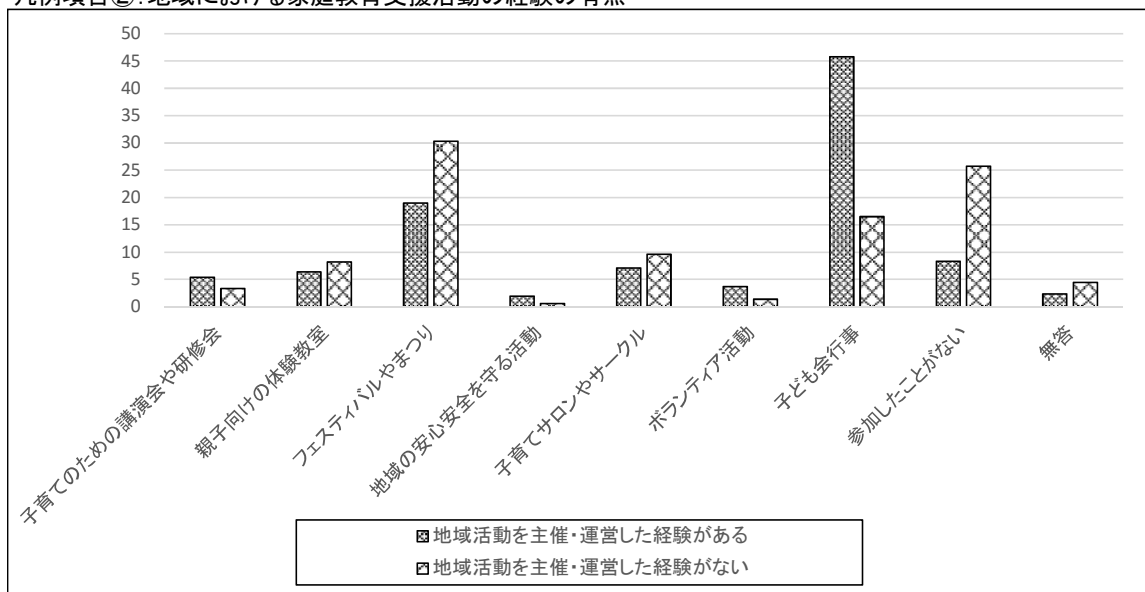
→全体では、「子ども会行事」「フェスティバルやまつり」への参加が多い。3番目に多いのは、「参加したことがない」という回答である。

問18～19 どのような地域における家庭教育(子育て)を支援する事業や活動に参加したことがありますか。

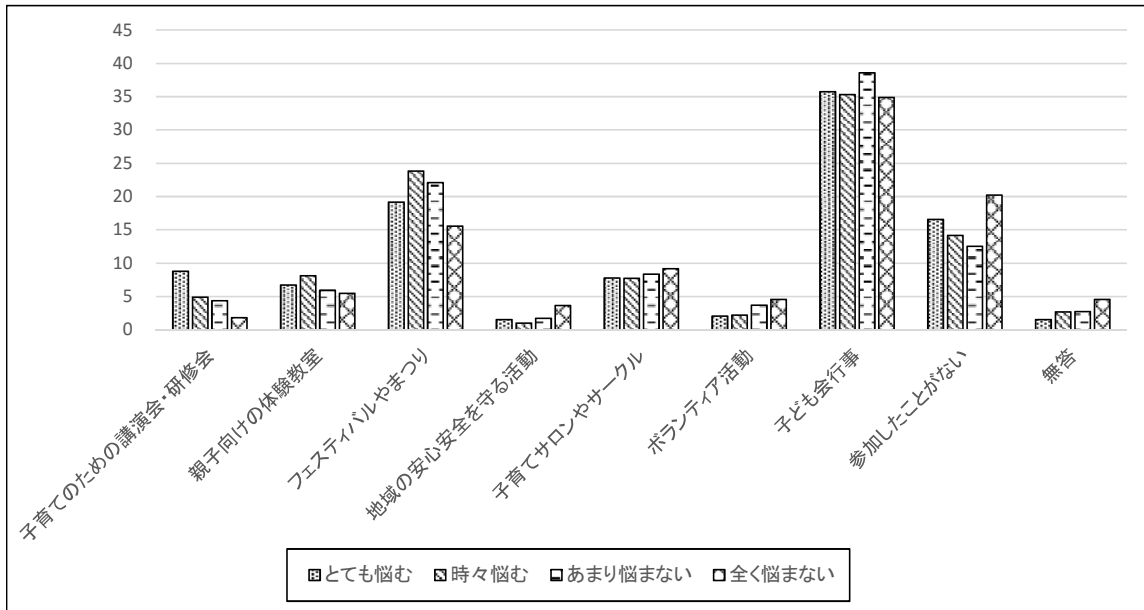
凡例項目①: 時間的なゆとりの有無



凡例項目②: 地域における家庭教育支援活動の経験の有無



凡例項目③:保護者としての立場に関する悩みの有無



<考察>

①時間的なゆとりの有無

- ・時間的なゆとりの有無に関係なく、「子ども会行事」「フェスティバルやまつり」への保護者の参加度は高い。
- ・時間的にゆとりがない保護者の約25%は「地域の活動に参加したことがない」と回答している。

②地域における家庭教育支援活動の経験の有無

- ・地域活動を主催・運営した経験がある保護者の約46%は、「子ども会行事」に参加している。
- ・地域活動を主催・運営した経験がない保護者の約30%は、「フェスティバルやまつり」に参加している。
- ・地域活動を主催・運営した経験がない保護者の約26%は、「地域における家庭教育支援活動に参加したことがない」と回答している。

③保護者としての立場に関する悩みの有無

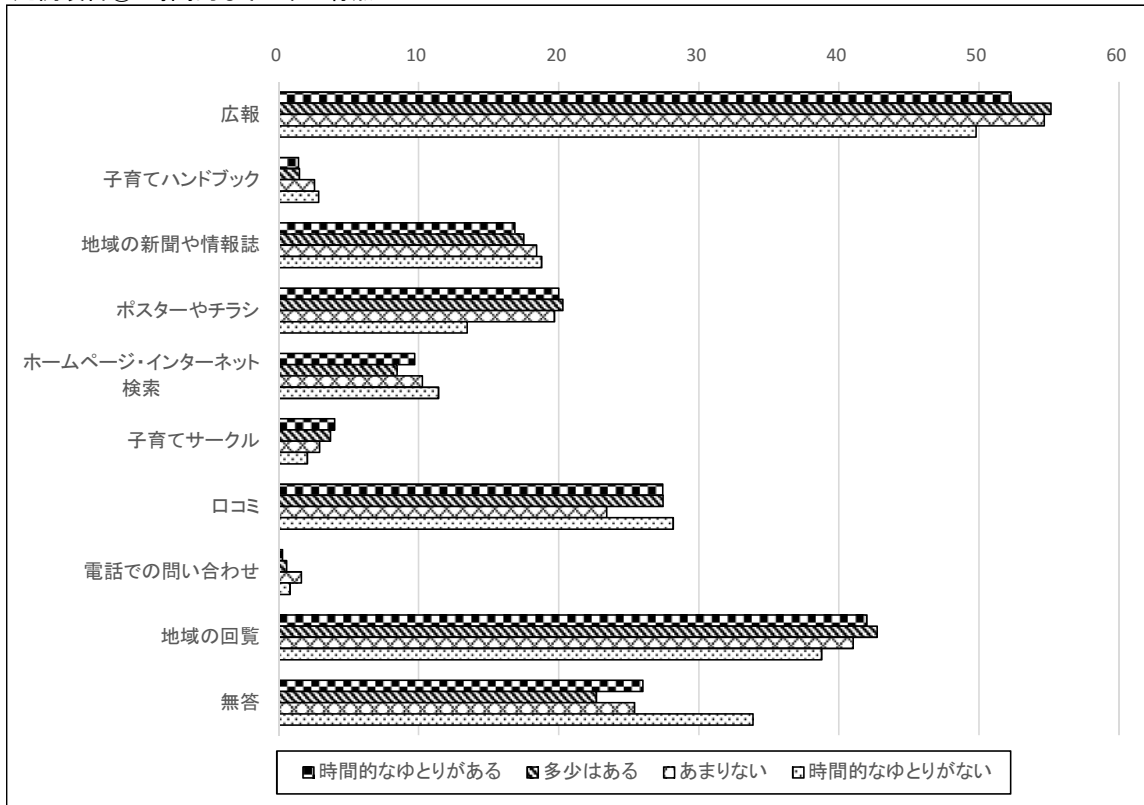
- ・保護者として深く悩んでいる保護者の10%近くは、「子育てのための講演会・研修会」に参加して、悩みを解消しようとしている。
- ・悩みを抱えていても、地域の支援活動に参加したことがない人が、17%近く存在する。
- ・保護者としての悩みのない保護者の20%以上が、地域の支援活動に参加したことがないと回答している。
→保護者のニーズに合った学習内容・タイミング・形式など、提供の在り方の検討が必要である。
参加率の高い「子ども会行事」「フェスティバルやまつり」の機会を利用して、保護者への子育てに関する各種の情報提供を図っていくことが有効であると考えられる。

◆【地域における家庭教育支援に関する情報の入手方法】

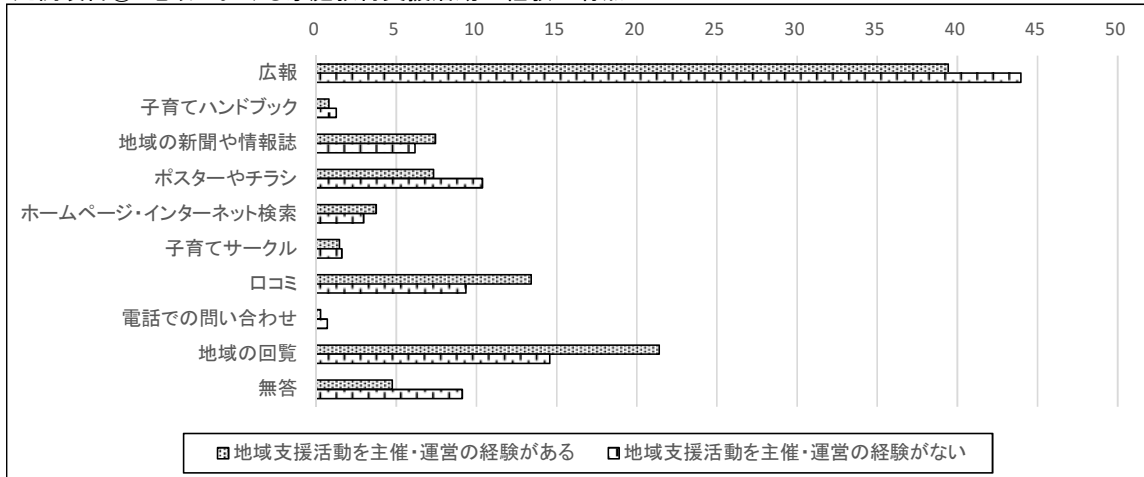
→全体では、「広報」「地域の回覧」から情報を入手している保護者が多い。

問20～21 地域における家庭教育(子育て)を支援する事業の情報をどのように入手していますか。

凡例項目①: 時間的なゆとりの有無



凡例項目②: 地域における家庭教育支援活動の経験の有無



<考察>

① 時間的なゆとりの有無

・時間的なゆとりの有無に関係なく、「広報」や「地域の回覧」によって、地域の家庭教育支援に係る活動の情報を入手する保護者の割合が高い。次に割合が高いのは、「口コミ」による情報である。

・他の質問項目と比べて「無答」の割合が高い。

→有効な情報伝達の方法を工夫していく必要がある。

→時間的なゆとりがない保護者が、ニーズに合った情報を得やすいように、インターネットで保護者が検索しやすいような内容及び掲載の仕方を工夫することも重要である。

② 地域における家庭教育支援活動の経験の有無

・地域における家庭教育支援活動の主催・運営の経験の有無に関わらず、「広報」や「地域の回覧」から情報を得ている傾向が高い。次に割合が高いのは、支援活動への経験がある保護者は「口コミ」での情報収集で、経験がない保護者は「ポスターやチラシ」での情報収集である。

→地域の重要な発信源として「広報」や「地域の回覧」は重要であることがわかる。連載コラムなど家庭教育に関するヒントをわかりやすく掲載するなど、「広報」や「地域の回覧」をより魅力的なもの、より目を引くものにしていくことが効果的である。

Ⅲ 家庭での教育や子育てに関する考え方

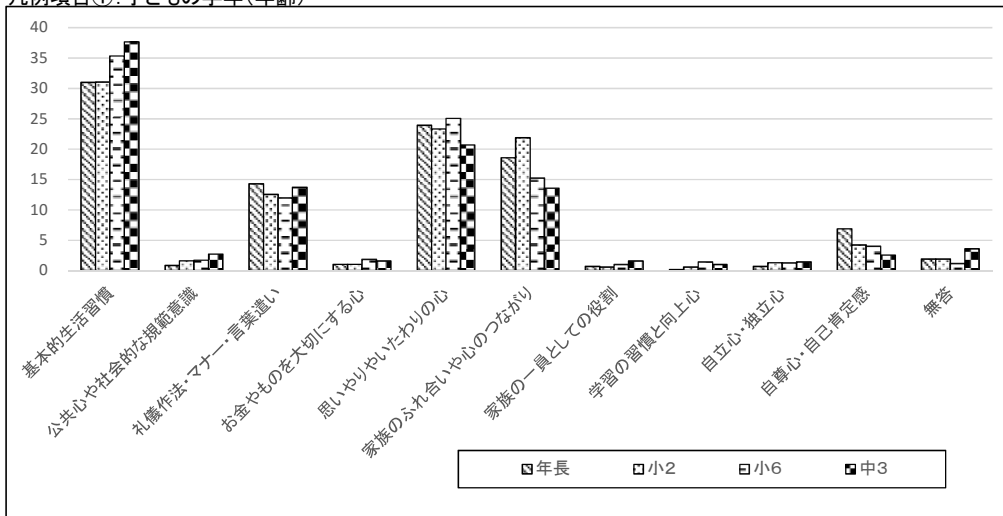
◆【家庭での教育で大切だと思うこと】

→家庭での教育で大切なことは、「**基本的な生活習慣**」「**思いやりやいたわりの心**」と回答した保護者の割合が高い。

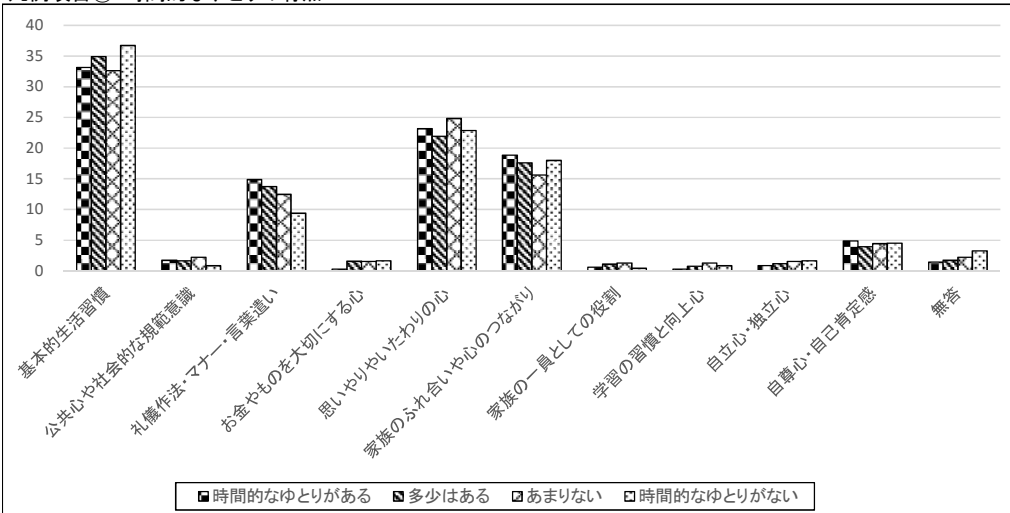
問22～24 家庭での教育（子育て）として何が大切だと思いますか。

	人数（人）	割合（%）
1 基本的な生活習慣	921	33.9
2 公共心や社会的な規範意識	47	1.7
3 礼儀作法、マナー、言葉遣い	354	13.0
4 お金やものを大切にする心	37	1.4
5 思いやりやいたわりの心	624	23.0
6 家族のふれ合いや家族の心のつながり	464	17.1
7 家族の一員としての役割	27	1.0
8 学習の習慣と向上心	24	0.9
9 自立心・独立心	34	1.3
10 自尊心・自己肯定感	115	4.2
無答	66	2.4
合計	2713	100.0

凡例項目①: 子どもの学年(年齢)



凡例項目②: 時間的なゆとりの有無



<考察>

①子どもの学年(年齢)

・家庭での教育で最も大切なのは、「基本的な生活習慣」を身につけさせることであると、どの学年の子をもつ保護者も一番高い割合で回答している。続いて、「思いやりやいたわりの心」「家族のふれ合いや心のつながり」「礼儀作法・マナー・言葉遣い」など、人間関係を豊かにするための教育を大切に感じている保護者の割合が高い傾向が見られる。

②時間的なゆとりの有無

・時間的なゆとりの有無に関係なく、家庭教育で一番大切なことは、「基本的な生活習慣」や「思いやりやいたわりの心」を育むことをあげている保護者の割合が高い。

→研修会等を企画する際には、保護者が家庭教育で大切に思う内容を取り上げながら、子育てを前向きにとらえ、自信をもつことができるような工夫が必要である。

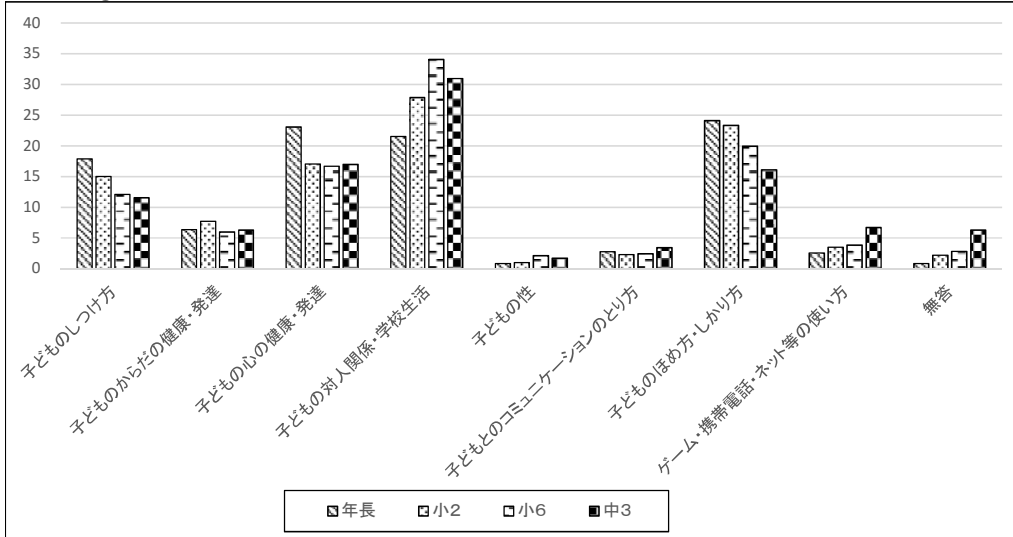
◆【家庭での教育で知りたい情報】

→家庭での教育で知りたい情報は、「子どもの対人関係・学校生活」「子どものほめ方・しかり方」という保護者からの回答が多い。

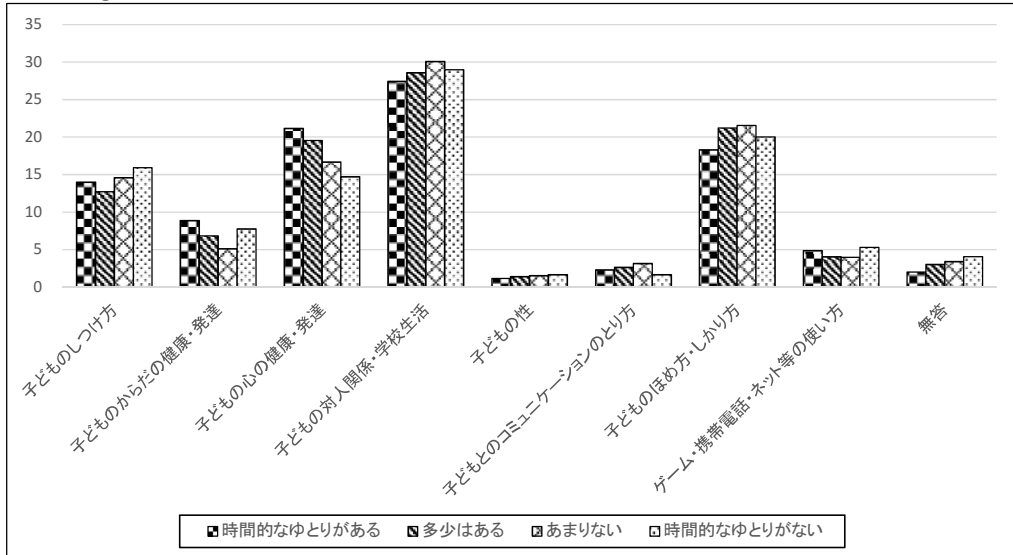
問25～26 家庭での教育(子育て)について知りたい情報はどんなことですか。

	人数(人)	割合(%)
1 子どものしつけ方	376	13.9
2 子どものからだの健康・発達	180	6.6
3 子どもの心の健康・発達	495	18.2
4 子どもの対人関係・学校生活	779	28.7
5 子どもの性	39	1.4
6 子どもとのコミュニケーションのとり方	73	2.7
7 子どものほめ方・しかり方	563	20.8
8 ゲーム機や携帯電話、インターネットの使い方	113	4.2
無答	95	3.5
合計	2713	100.0

凡例項目①: 子どもの学年(年齢)



凡例項目②: 時間的なゆとりの有無



<考察>

①子どもの学年(年齢)

- ・年長児をもつ保護者は、「子どものほめ方・しかり方」に関する情報を求める傾向が高い。
- ・小学校2年生、小学校6年生、中学校3年生の子をもつ保護者は、「子どもの対人関係・学校生活」における情報を最も知りたいと感じている傾向が見られる。
- ・「子どものほめ方・しかり方」についての情報を求めている保護者の割合が高いが、「子どもとのコミュニケーションのとり方」について情報が欲しいと考えている保護者の割合は低い。

②時間的なゆとりの有無

- ・時間的なゆとりの有無に関係なく、保護者が家庭での教育で知りたい情報は、「子どもの対人関係・学校生活」について、次に知りたいことは、「子どものほめ方・しかり方」についてである。

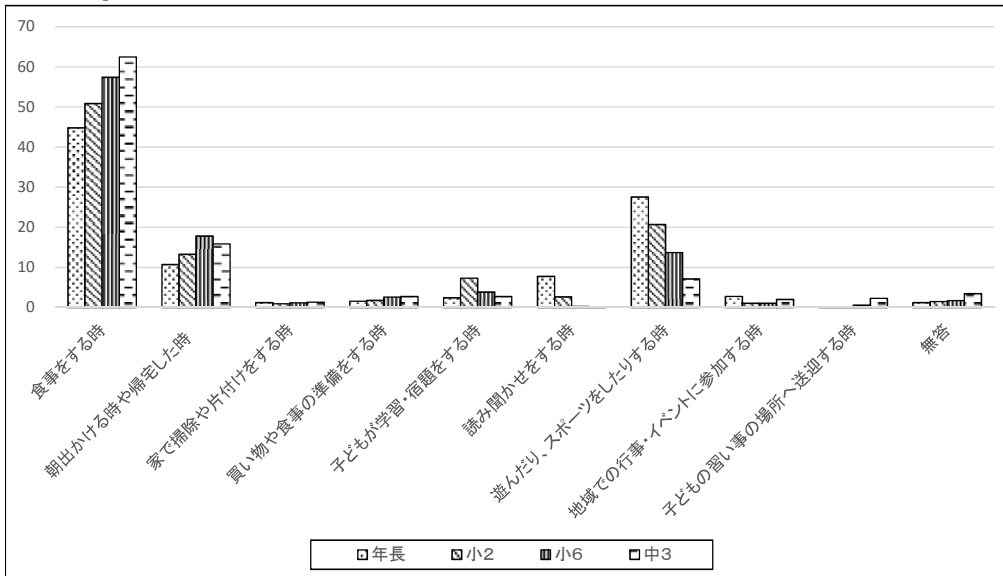
◆【家庭において子どもと大切にしたい時間】

→家庭において、子どもと大切にしたい時間は、「食事をする時」「遊んだり、スポーツをしたりする時」「朝出かける時や帰宅した時」と回答する保護者が多い。

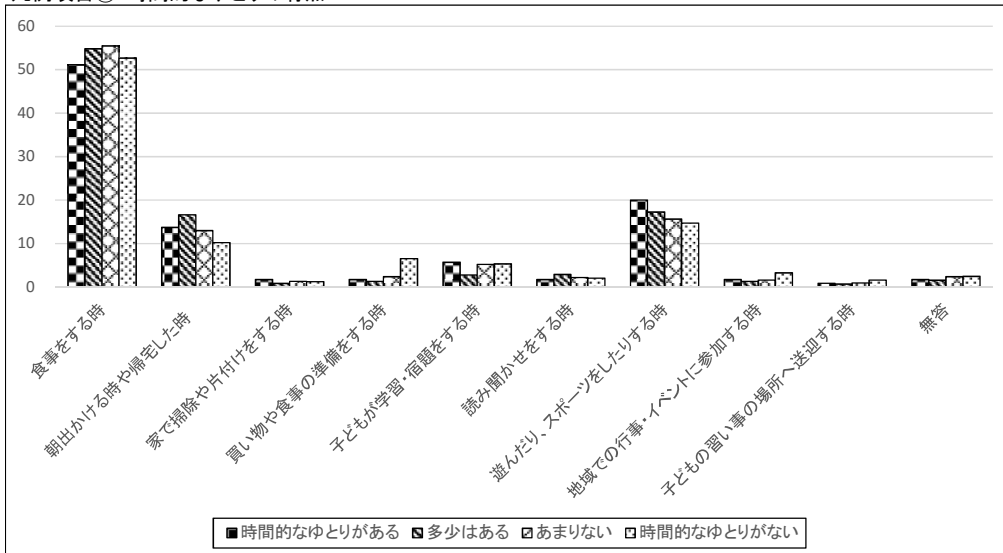
問27～29 お子さんと大切にしたいのはどのような時ですか。

	人数(人)	割合(%)
1 食事をする時	1467	54.1
2 朝出かける時や帰宅した時	393	14.5
3 家で掃除や片付けをする時	30	1.1
4 買い物や食事の準備をする時	59	2.2
5 子どもが学習・宿題をする時	112	4.1
6 読み聞かせをする時	66	2.4
7 遊んだり、スポーツをしたりする時	455	16.8
8 地域での行事、イベントに参加する時	45	1.7
9 子どもの習い事の場所へ送迎する時	23	0.8
無答	63	2.3
合計	2713	100.0

凡例項目①:子どもの学年(年齢)



凡例項目②:時間的なゆとりの有無



<考察>

・全体の約54%の保護者が、「食事をする時」を大切にしたいと思っている。

①子どもの学年(年齢)

・子どもの年齢が上がるにつれ、食事の時間を重要視している。

・逆に、子どもの年齢が上がるにつれ、「遊んだり、スポーツをしたりする時」の割合が減少している。

②時間的なゆとりの有無

・時間的なゆとりの有無に関わらず、50%以上の保護者は、家庭において子どもと大切にしたい時は「食事をする時」であると答えている。また、「遊んだり、スポーツをしたりする時」を次に多くあげている。

→日常生活の中で、あえて時間をつくるのではなく、共に活動する時間の有効な活用方法を工夫していく必要がある。

IV 地域による支援に関する考え方

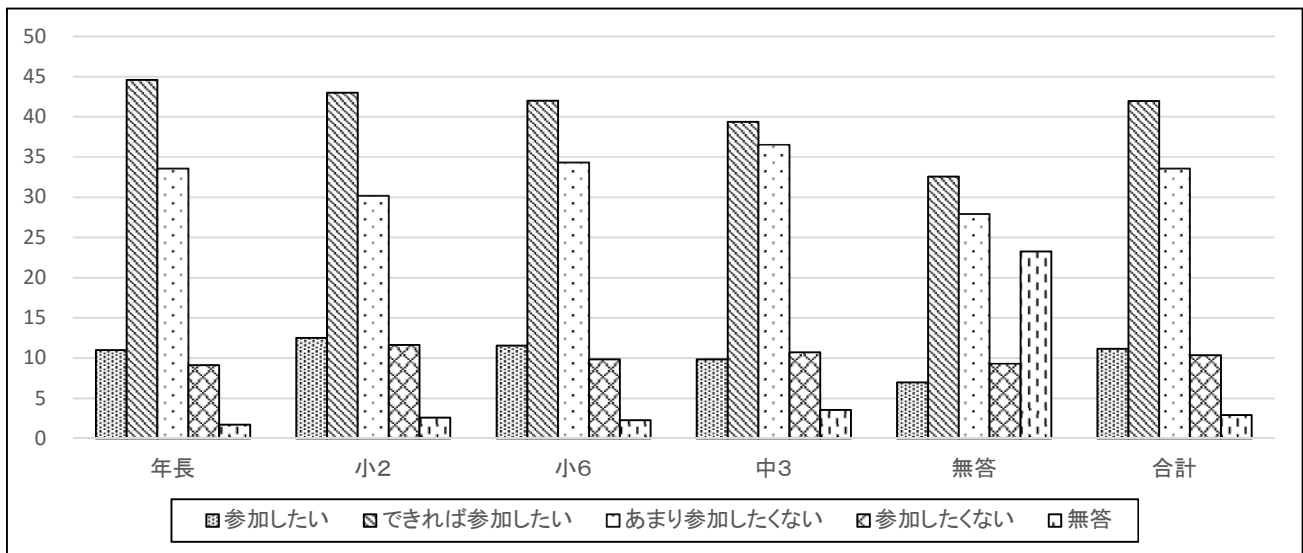
◆【地域における家庭教育を学習する機会への参加希望の有無】

→保護者の約53%が、「地域における家庭教育を学習する機会があったら参加したい、できれば参加したい」と思っている。

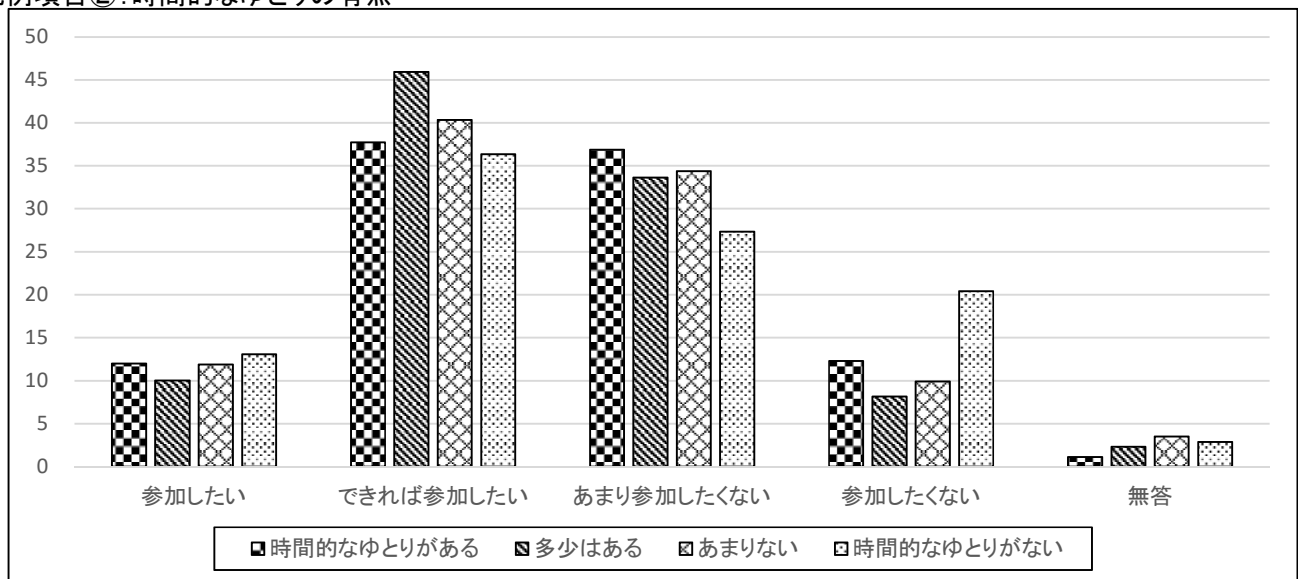
問30 地域において家庭教育を学習する機会（子育て関連の講座・意見交流会・体験教室・PTA活動・子ども会活動など）があったら参加したいですか。

	人数（人）	割合（％）
1 参加したい	303	11.2
2 できれば参加したい	1139	42.0
3 あまり参加したくない	911	33.6
4 参加したくない	281	10.4
無答	79	2.9
合計	2713	100.0

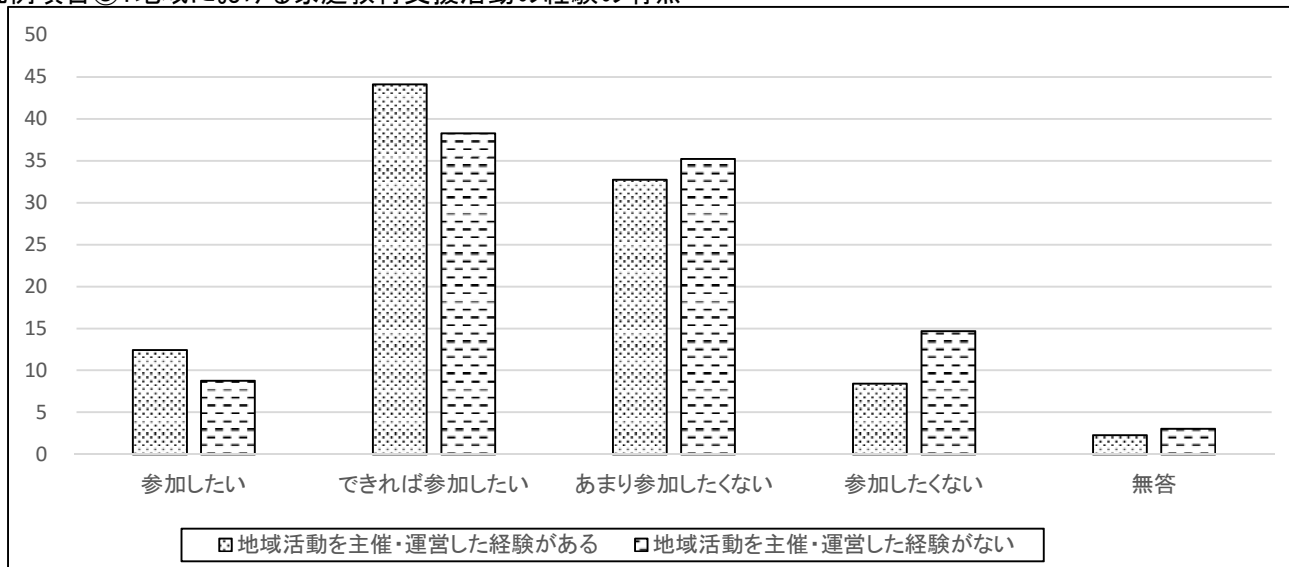
凡例項目①：子どもの学年（年齢）



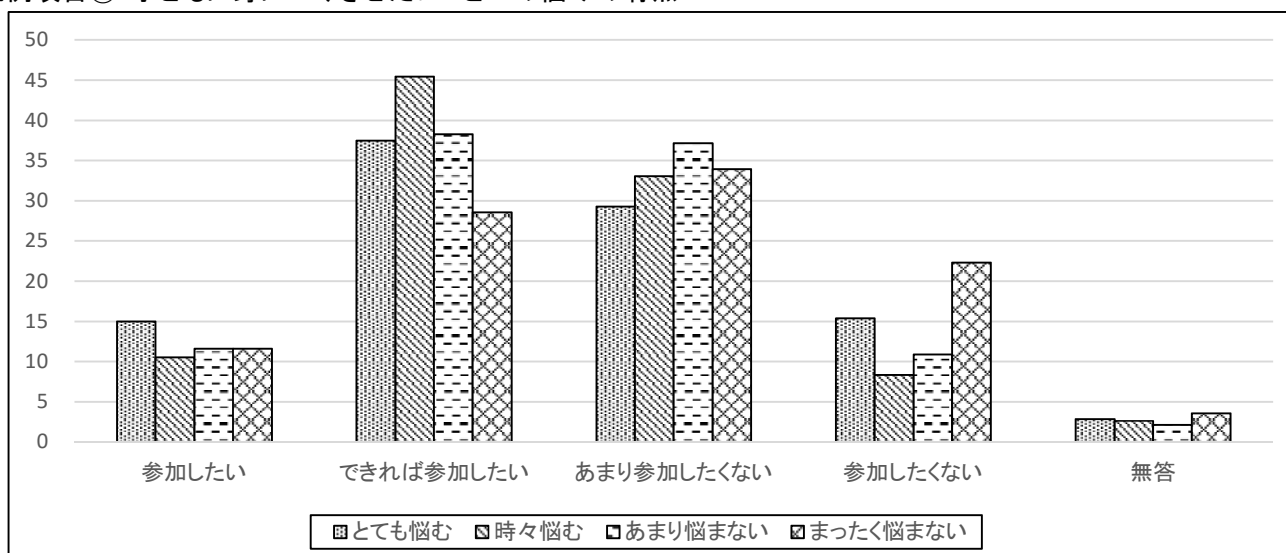
凡例項目②：時間的なゆとりの有無



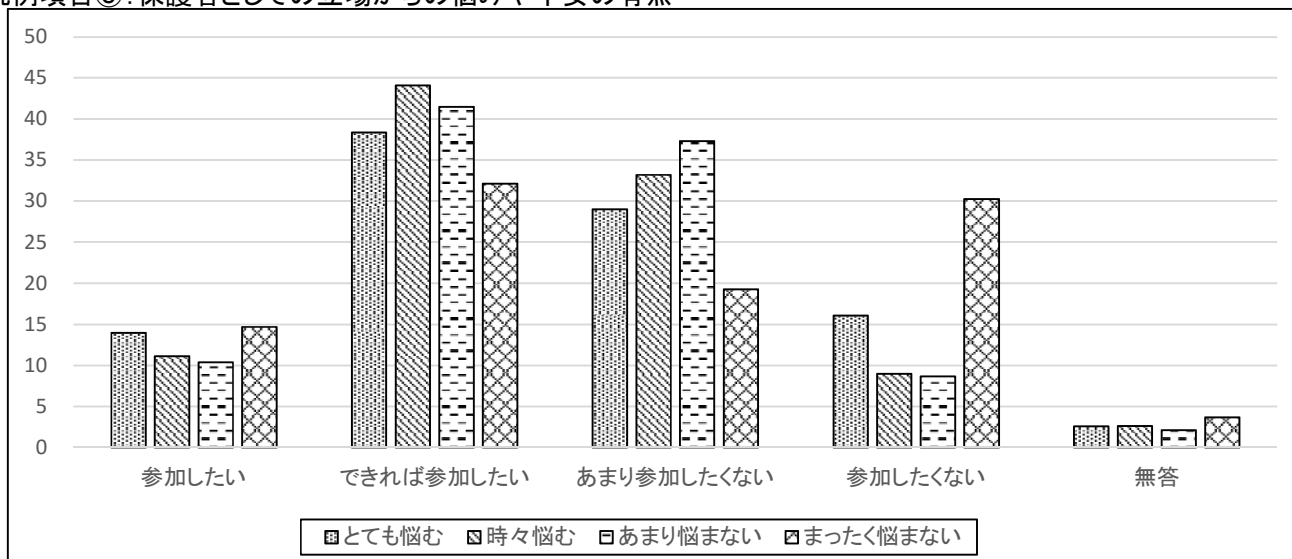
凡例項目③: 地域における家庭教育支援活動の経験の有無



凡例項目④: 子どもに身につけさせたいことへの悩みの有無



凡例項目⑤: 保護者としての立場からの悩みや不安の有無



<考察>

①子どもの学年(年齢)

- ・全体の約53%の保護者が、「地域における家庭教育を学習する機会への参加」を希望している。
- ・「参加したくない」と思っている保護者は、全体の約10%を占めている。

②時間的なゆとりの有無

- ・時間的なゆとりがない保護者の約20%は、地域での学習機会へ「参加したくない」と思っているが、約50%の保護者は、時間が許せば参加したいと思っており、忙しい中でも家庭教育について学びたい気持ちがあることがわかる。

→仕事があるために時間的なゆとりがない保護者に対して、家庭教育についての啓発活動を職場等で展開していく必要があると考える。

③地域における家庭教育支援活動の経験の有無

- ・今までに、家庭教育を支援する活動の企画・運営の経験がある人の方がいない人に比べて、「家庭教育を学習する機会への参加希望」の傾向が約10%高い。

④子どもに身につけさせたいことへの悩みの有無

- ・「まったく悩まない」保護者の55%近くが、地域での学習の機会への参加を望んでいない。
- ・「とても悩む、時々悩む」保護者は、地域での学習の機会を求める割合が高い。

⑤保護者としての立場からの悩みや不安の有無

- ・保護者としての悩みのある保護者やあまり悩みのない保護者の過半数は、学習の機会へ参加したいと感じている。

- ・まったく悩まない保護者は、参加したくないと思っている割合が約30%である。

→保護者の悩みに応えることのできる学習機会を提供することが大切である。

→悩める保護者が気軽に相談できるような機会や場を広く周知し、個別対応の対策がますます必要となってくる。

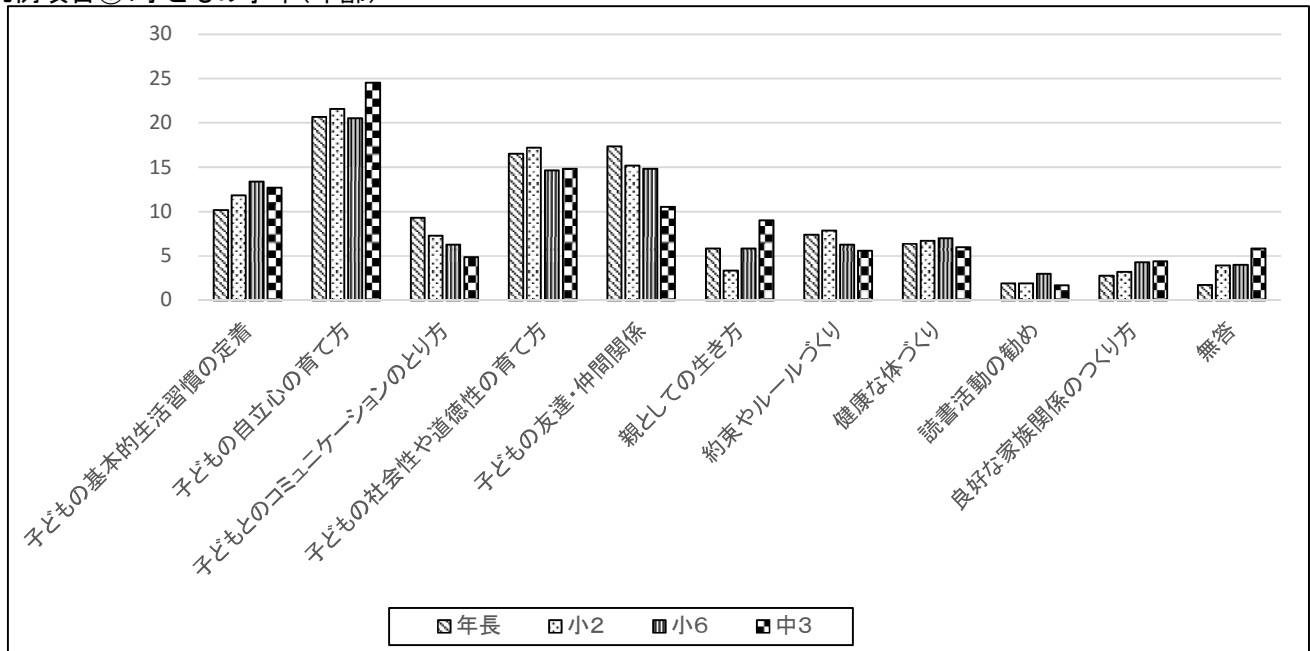
◆【地域での家庭教育に関する学習機会で、一番大切にしたい内容】

→地域において、家庭教育を学習する機会があったら、「子どもの自立心の育て方」「子どもの社会性や道徳性の育て方」「子どもの友達・仲間関係」といった内容に参加したいと思う保護者が多い。

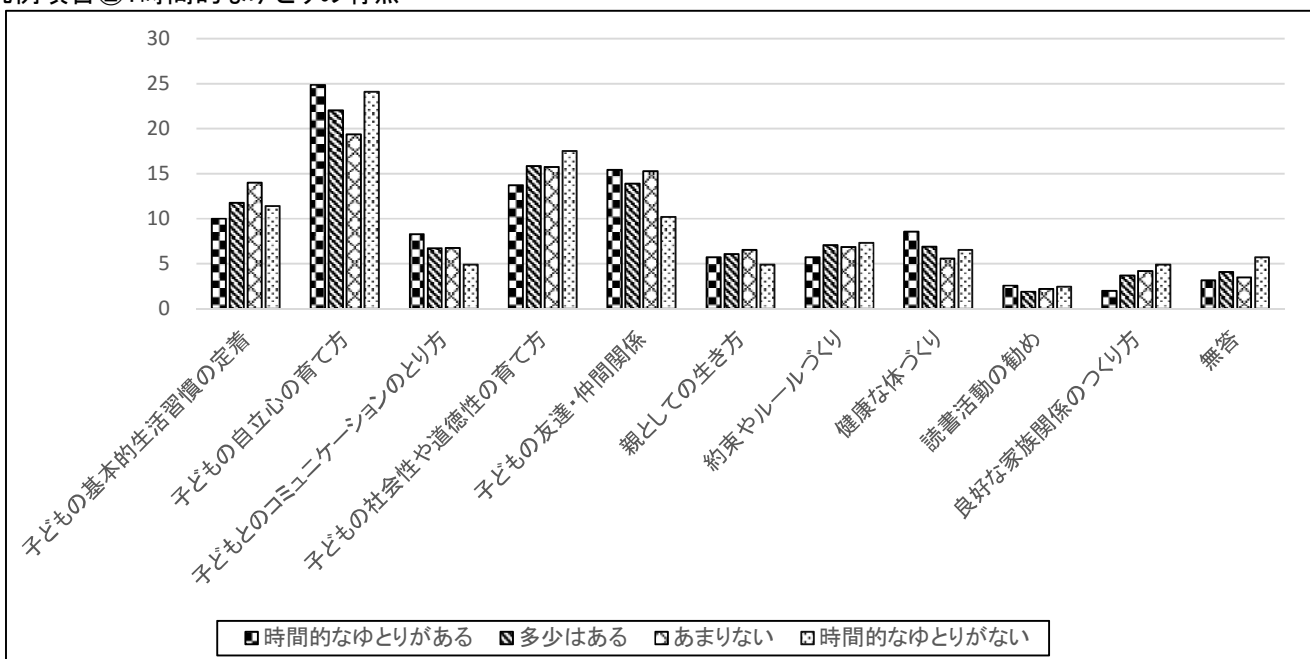
問31～33 地域において家庭教育を学習する機会があったら、どのような内容のものに参加したいと思いますか。

	人数（人）	割合（％）
1 子どもの基本的生活習慣の定着	328	12.1
2 子どもの自立心の育て方	589	21.7
3 子どもとのコミュニケーションのとり方	184	6.8
4 子どもの社会性や道徳性の育て方	426	15.7
5 子どもの友達・仲間関係	386	14.2
6 親としての生き方	164	6.0
7 約束やルールづくり	184	6.8
8 健康な体づくり	180	6.6
9 読書活動の勧め	57	2.1
10 良好な家族関係のづくり方	100	3.7
無 答	115	4.2
合 計	2713	100.0

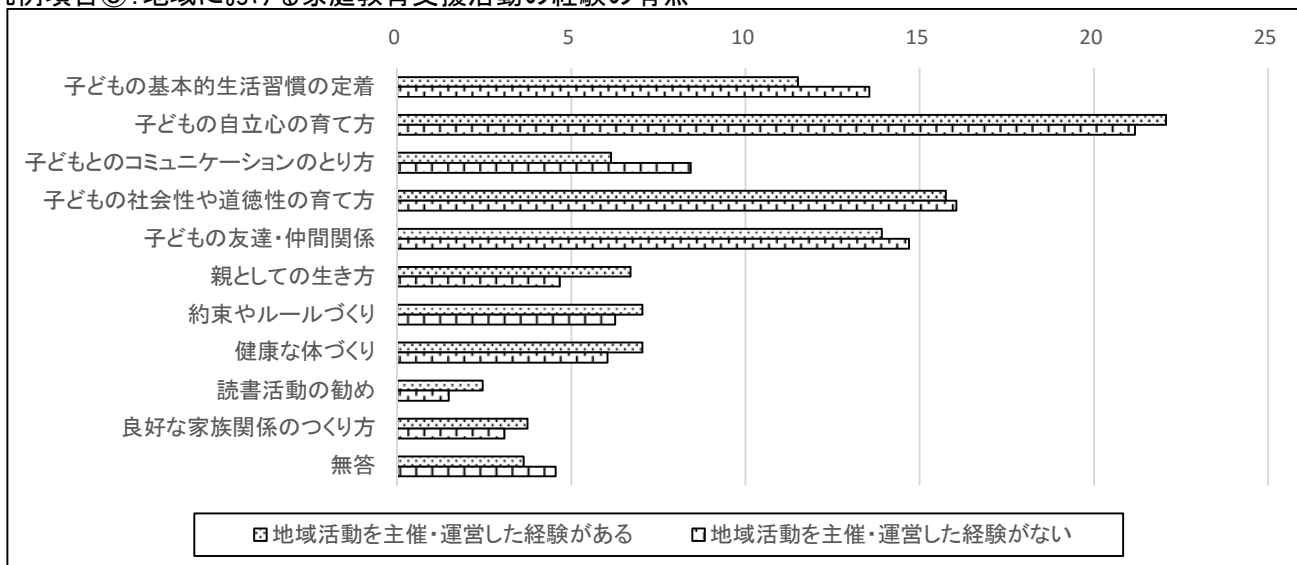
凡例項目①：子どもの学年（年齢）



凡例項目②：時間的なゆとりの有無



凡例項目③：地域における家庭教育支援活動の経験の有無



<考察>

①子どもの学年(年齢)

・地域での家庭教育に関する学習機会のうち参加したいと思う学習内容で関心が高いのは、どの学年の子をもつ保護者においても、「子どもの自立心の育て方」「子どもの社会性や道徳性の育て方」「子どもの友達・仲間関係」である。

②時間的なゆとりの有無

・保護者は、時間的なゆとりの有無に関わらず「子どもの自立心の育て方」「子どもの社会性や道徳性の育て方」「子どもの友達や仲間関係」を、地域で学びたいと考えている。

③地域における家庭教育支援活動の経験の有無

・地域における家庭教育支援活動の主催・運営の経験の有無に関わらず、「子どもの自立心の育て方」「子どもの社会性や道徳性の育て方」「子どもの友達・仲間関係」の順に、関心が高くなっている。

→多くの保護者は、「子どもの自立心の育て方」の学習を希望している。「子どもが自立する」ためには、どのように子どもへ関わればよいかを、保護者が自覚できるような学習プログラムを作成し支援していく必要がある。

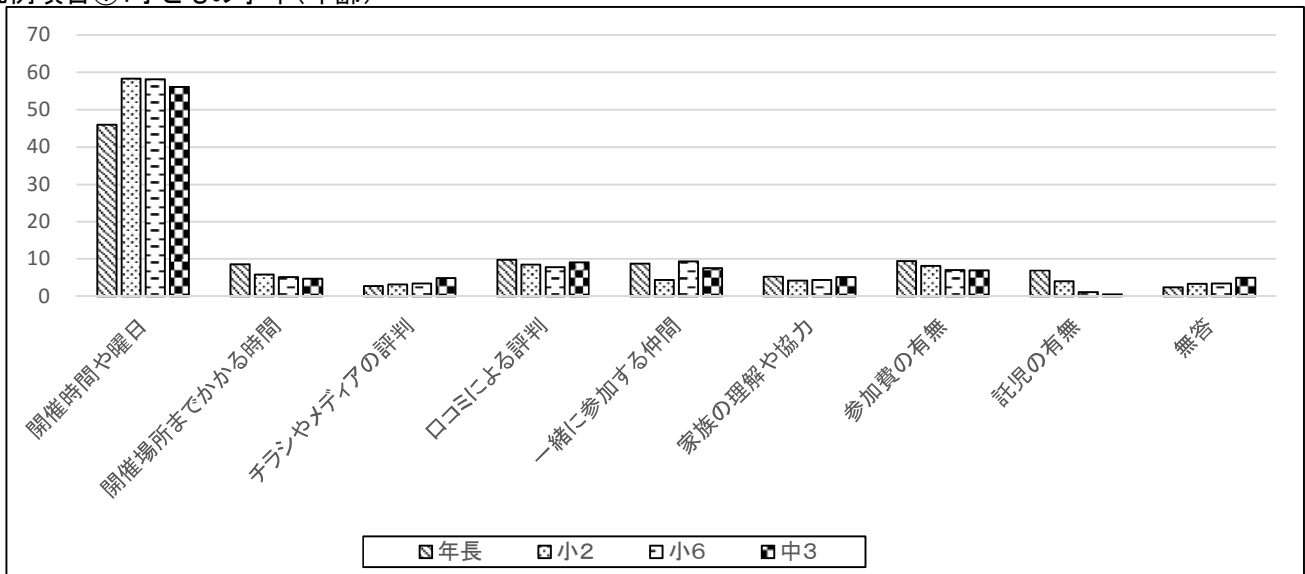
◆【地域における家庭教育に関する学習機会において重視すること】

→地域において、家庭教育を学習する機会があった時に重要視することは、過半数の保護者が「開催時間や曜日」と回答している。

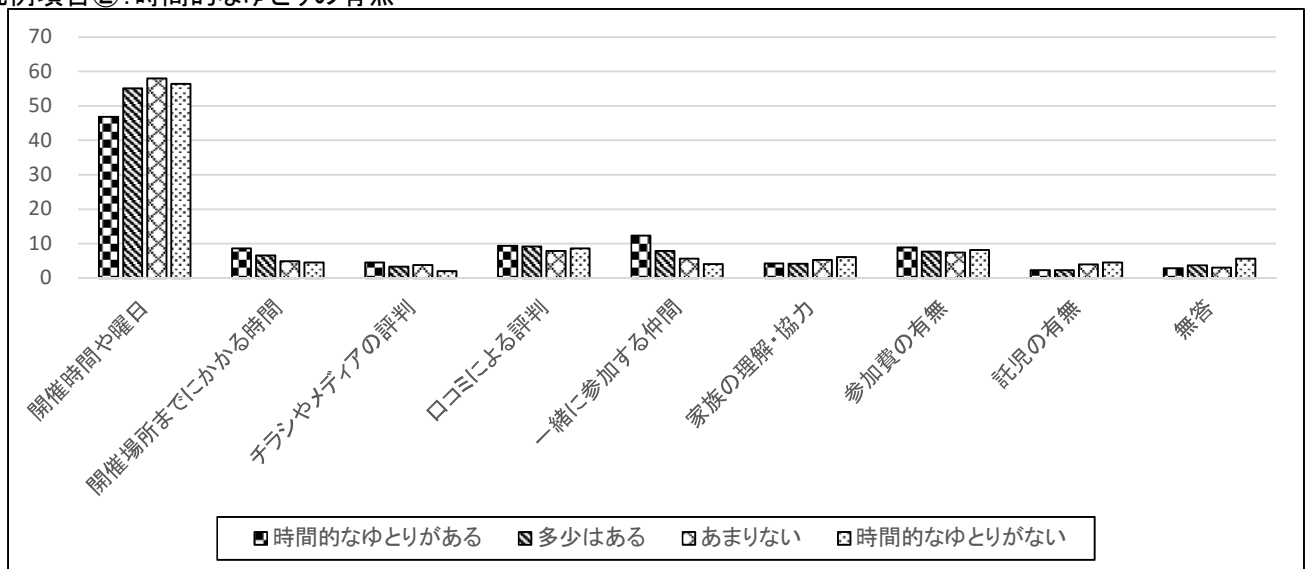
問34 家庭教育について学習する機会があった時に、重要視することはどのようなことですか。

	人数（人）	割合（％）
1 開催時間や曜日	1488	54.8
2 開催場所までかかる時間	163	6.0
3 チラシやメディアの評判	98	3.6
4 口コミによる評判	237	8.7
5 一緒に参加する仲間	203	7.5
6 家族の理解・協力	128	4.7
7 参加費の有無	212	7.8
8 託児の有無	81	3.0
無 答	103	3.8
合 計	2713	100.0

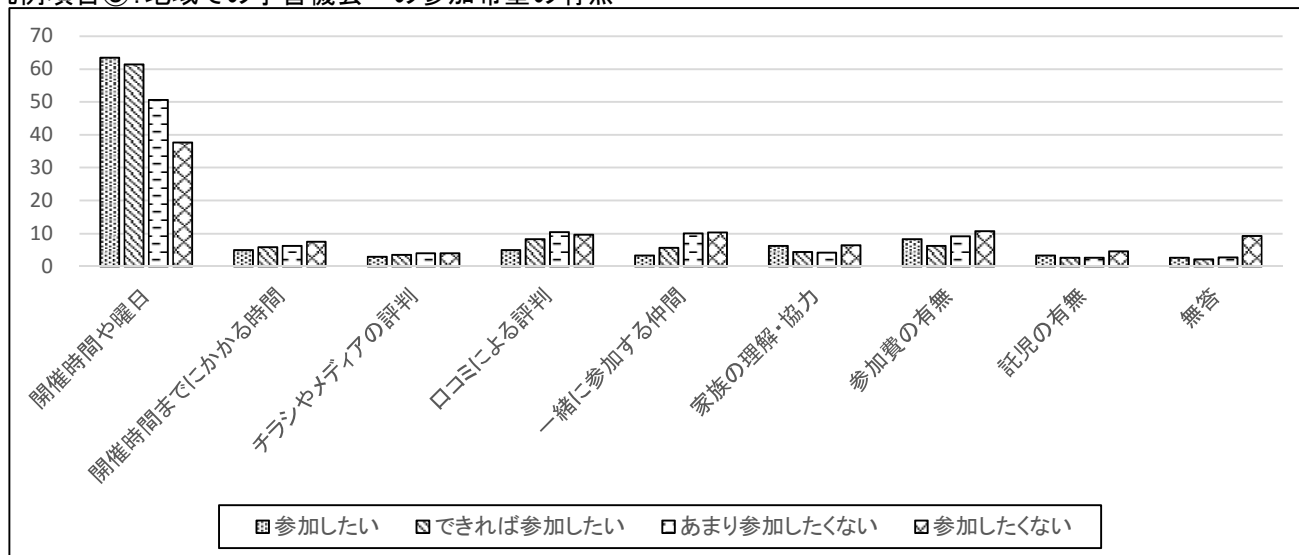
凡例項目①：子どもの学年（年齢）



凡例項目②：時間的なゆとりの有無



凡例項目③：地域での学習機会への参加希望の有無



<考察>

①子どもの学年(年齢)

・過半数の保護者が、「開催時間や曜日」を重要視している。

②時間的なゆとりの有無

・時間的なゆとりの有無に関わらず、過半数の保護者が「開催時間や曜日」を重要視している。

③地域での学習機会への参加希望の有無

・今後、地域における家庭教育を学習する機会に参加したいと思う保護者の約60%が、学習機会として重要視することは、「開催時間や曜日」である。

・地域における家庭教育を学習する機会に参加したくないと思う保護者には、割合は少ないが、「一緒に参加する仲間」の存在や「参加費の有無」も影響している。

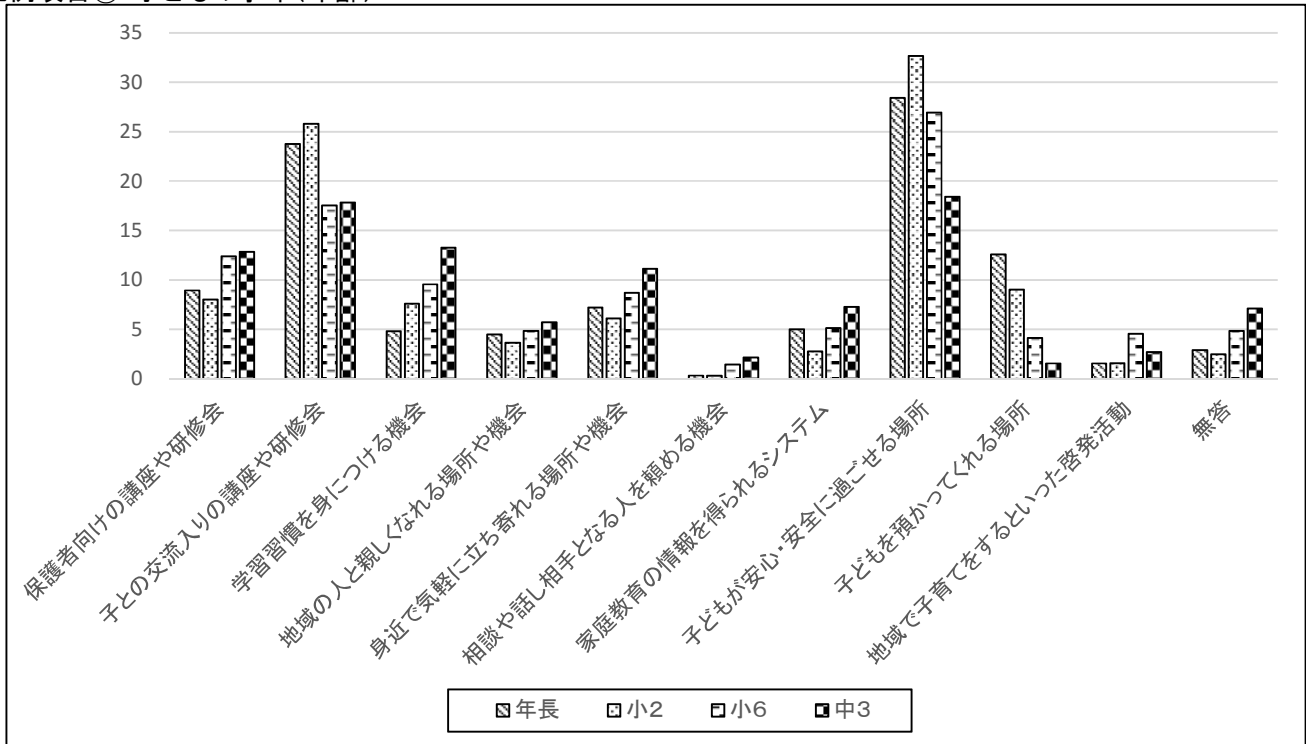
→保護者のニーズに応じた「開催時間や曜日」に合わせて家庭教育に関わる学習の機会を企画することにより、参加しやすい状況をつくる必要がある。

◆【地域における家庭教育支援に望む活動内容】

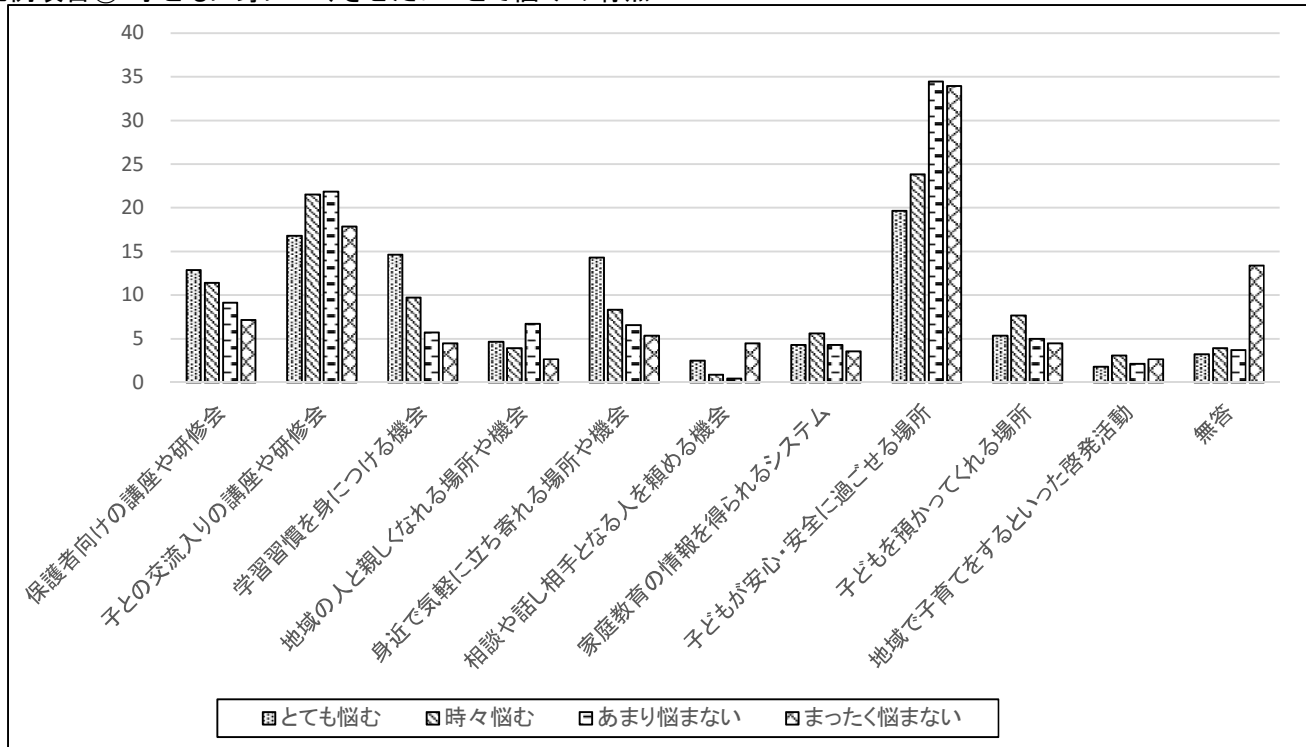
→地域において希望する家庭教育支援活動の内容は、「子どもが安心・安全に過ごせる場所」「子どもの交流入りの講座や研修会」との回答が多い。

問35～37 地域においてどのような家庭教育(子育て)支援があればよいと思いますか。

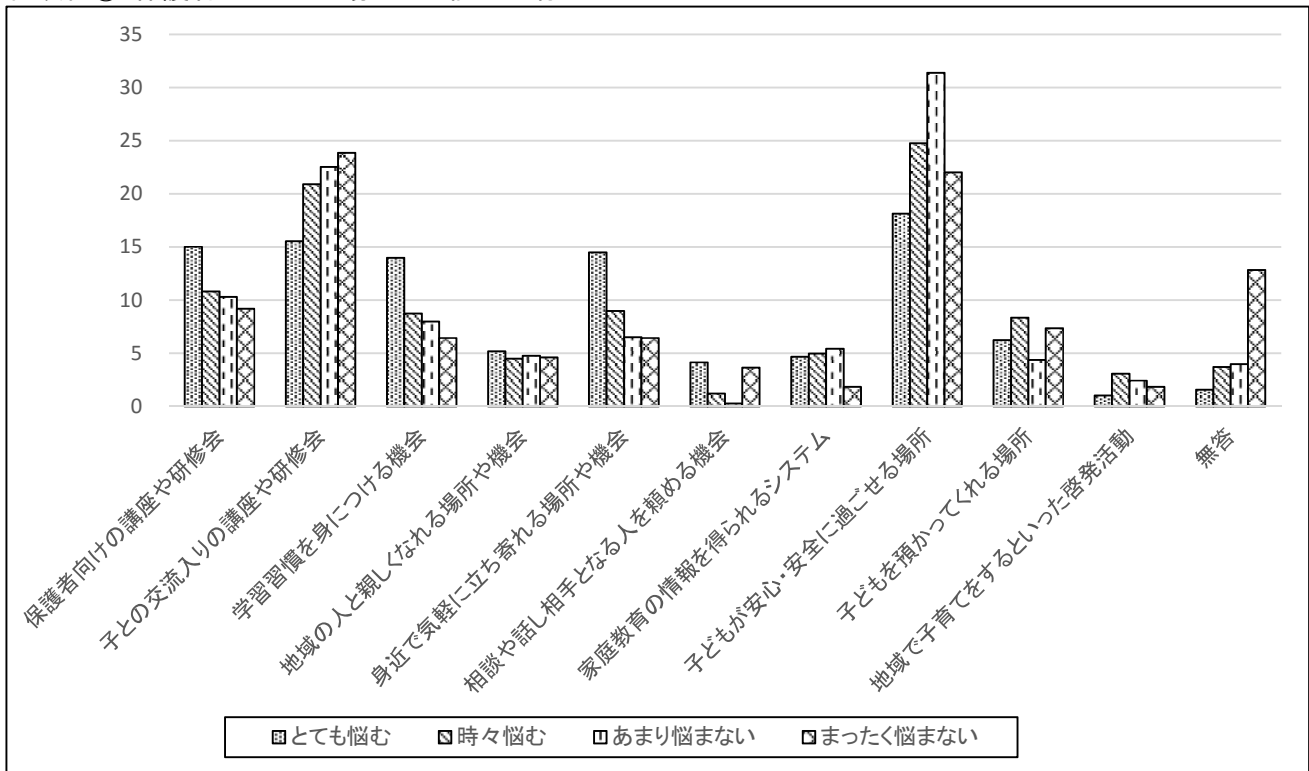
凡例項目①:子どもの学年(年齢)



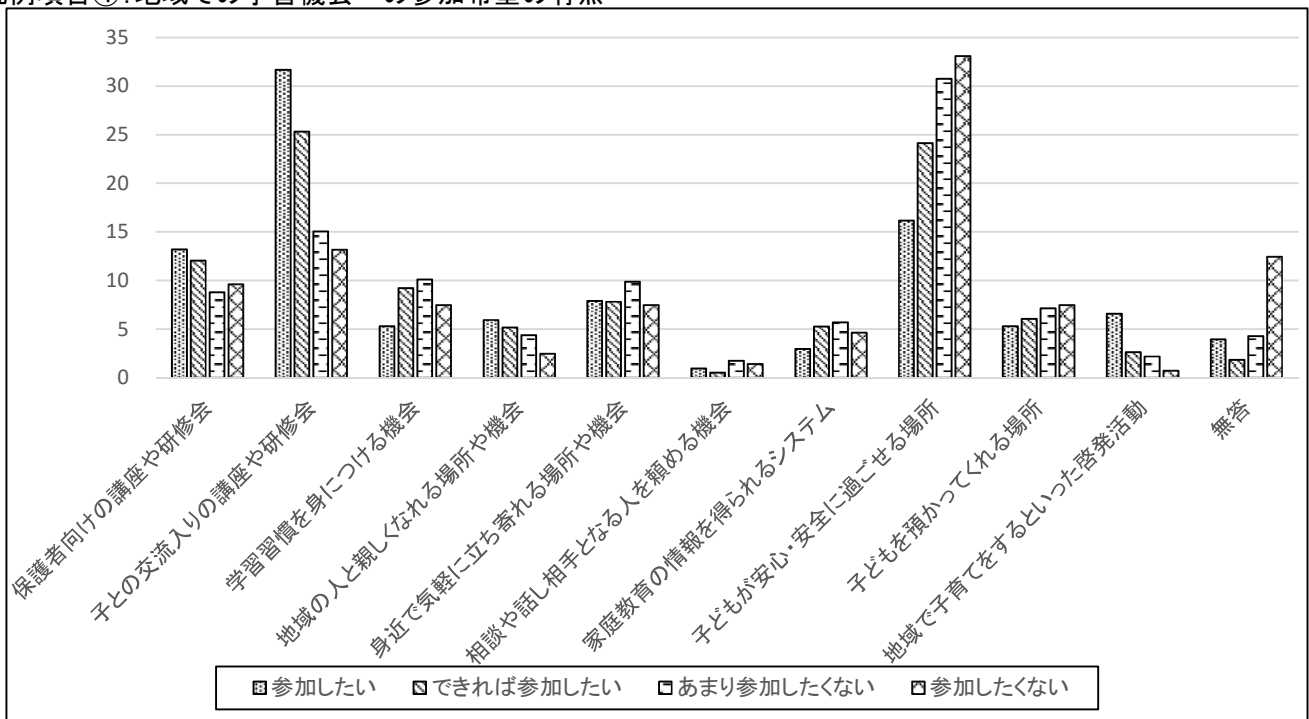
凡例項目②:子どもに身につけさせたいことで悩みの有無



凡例項目③: 保護者としての立場からの悩みの有無



凡例項目④: 地域での学習機会への参加希望の有無



＜考察＞

①子どもの学年(年齢)

- ・「子どもが安心・安全に過ごせる場所」「子との交流入りの講座や研修会」を望む保護者の割合がどの学年においても高い。
- ・「保護者向けの講座や研修会」や「学習習慣を身につける機会」「身近で気軽に立ち寄れる場所や機会」といった、親の学びに関する学習機会を欲する保護者の割合は、学年が上がるにつれて高くなっている。

②子どもに身につけさせたいことで悩みの有無

- ・子どもに身につけさせたいことで悩みのある保護者は、「学習習慣を身につける機会」や「身近で気軽に立ち寄れる場所や機会」を望む割合が他と比べて高い。
- ・子どもに身につけさせたいことで悩みのない保護者は、「子どもが安心・安全に過ごせる場所」を望む保護者が多い。

③保護者としての立場からの悩みの有無

- ・保護者としての立場からの悩みのある保護者は、「身近で気軽に立ち寄れる場所や機会」や「保護者向けの講座や研修会」への希望の割合が他と比べて高い。
- ・あまり悩まない・まったく悩まない保護者は、「子どもが安心・安全に過ごせる場所」や「子との交流入りの講座や研修会」を望む割合が高い。

④地域での学習機会への参加希望の有無

- ・今後、地域における家庭教育に関する学習に参加したいと思っている保護者は、地域においての家庭教育支援に「子との交流入りの講座や研修会」や「保護者向けの講座や研修会」を希望する人の割合が他と比べて高い。
 - ニーズに応じた機会を提供することを通して、保護者の学習参加を促すことができる。
- ・今後、地域における家庭教育に関する学習に参加したくないと思っている保護者は、「子どもが安心・安全に過ごせる場所」を希望する人の割合が高い。
 - 「子どもが安心・安全に過ごせる場所」については、これまでの学校支援活動をベースに、一層地域と学校が組織的に連携・協働する体制を整備していく必要がある。
 - また、保護者のニーズを把握しつつ、参加しやすく魅力的な活動や学習プログラムを開発していくことが求められる。

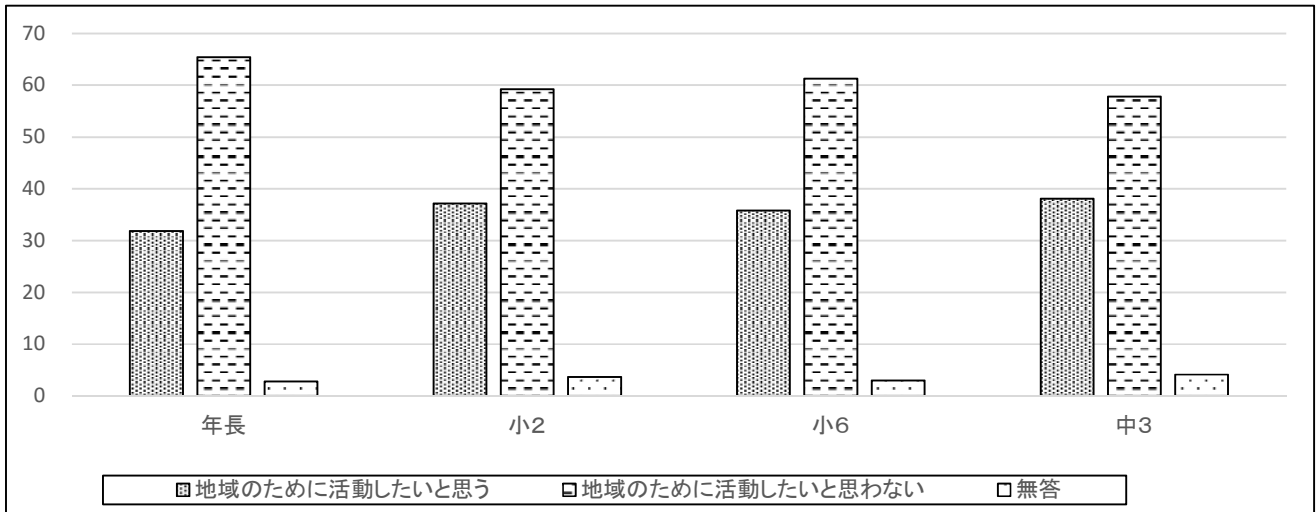
◆【地域における家庭教育の支援に関する活動への参加希望の有無】

→地域における家庭教育の支援活動への参加を希望する保護者は約36%で、学年が上がるにつれ多くなっている。

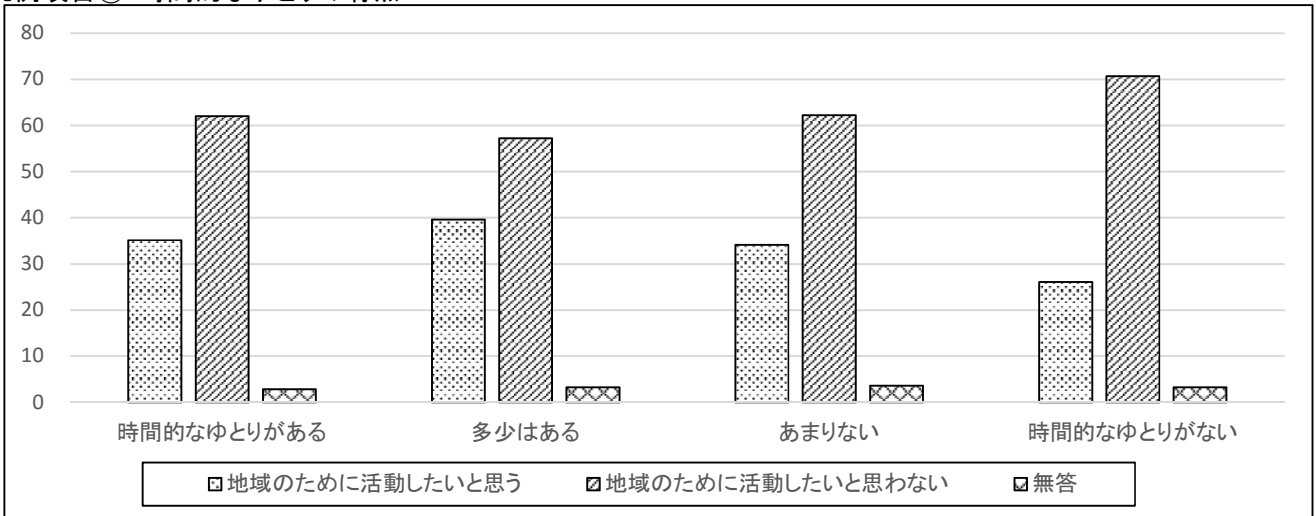
問38 今後、地域において家庭教育に関する支援(子育て関連の講座・意見交流会・体験教室・PTA活動・相談活動など)を手伝ったり協力したりして、地域のために活動をしたいと思いませんか。

	人数 (人)	割合 (%)
1 今後、地域のために活動したいと思う	972	35.8
2 今後、地域のために活動したいと思わない	1640	60.4
無 答	101	3.7
合 計	2713	100.0

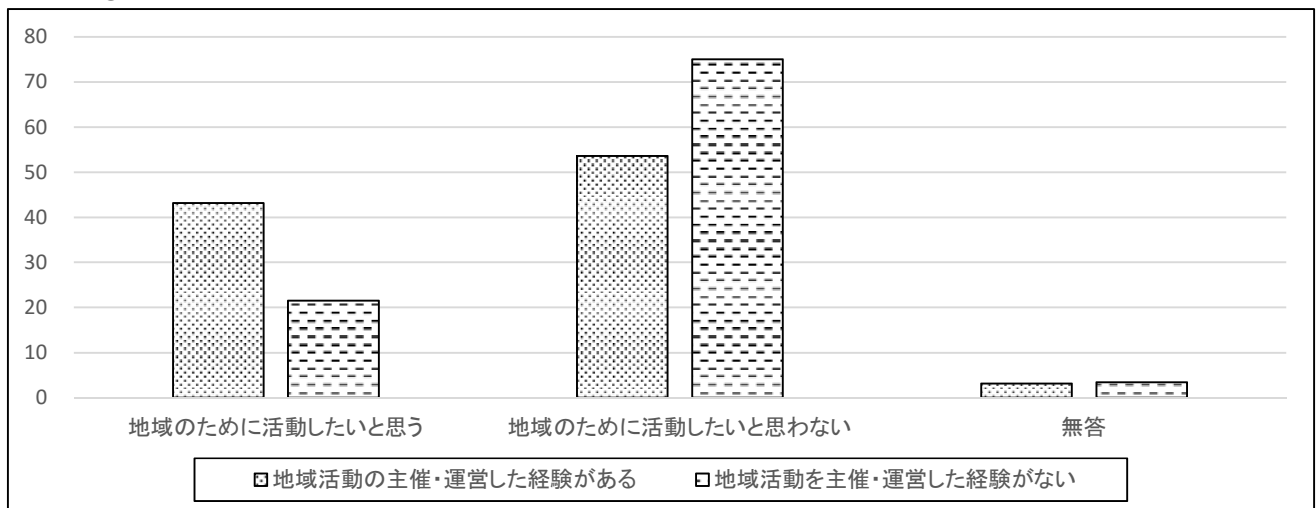
凡例項目①: 子どもの学年(年齢)



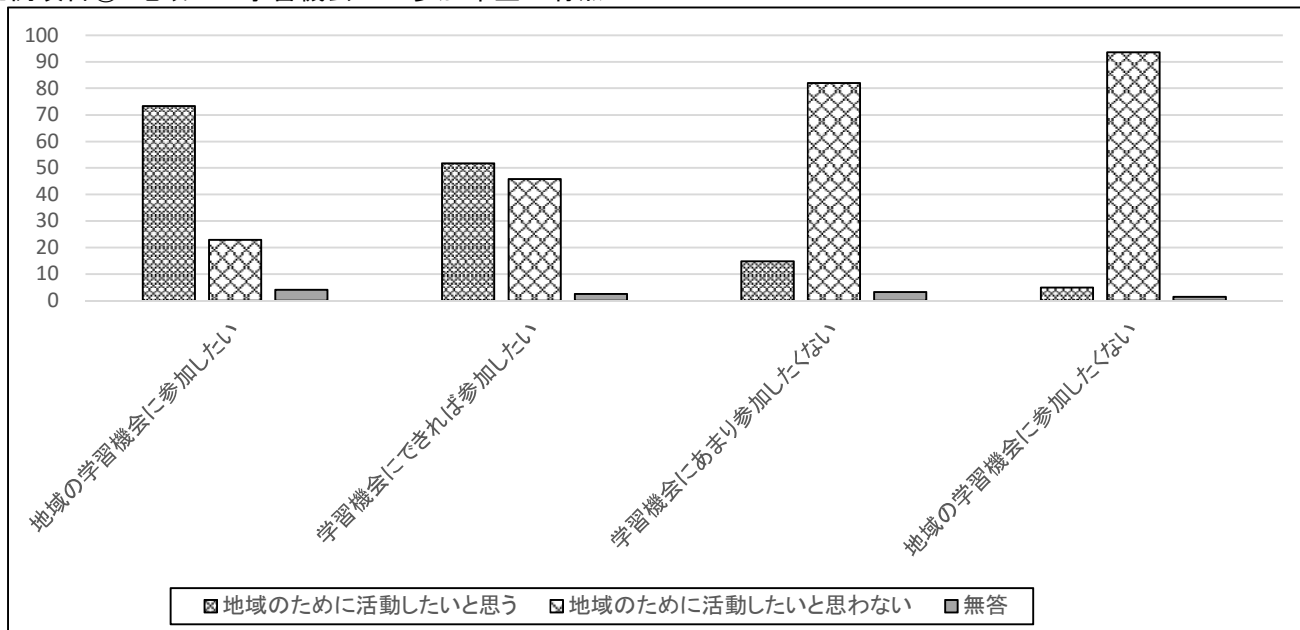
凡例項目②: 時間的なゆとりの有無



凡例項目③: 地域における家庭教育支援活動の経験の有無



凡例項目④：地域での学習機会への参加希望の有無



<考察>

①子どもの学年(年齢)

・全体の約36%の保護者が、「今後、地域のために活動したいと思う」と回答している。特に中学校3年生の子をもつ保護者の割合が高く、その割合は約38%となっている。

②時間的なゆとりの有無

・時間的なゆとりがあまりない保護者やゆとりがない保護者の中でも約30%が、「今後、地域のために活動したい」と思っていることがわかる。

③地域における家庭教育支援活動の経験の有無

・「地域のために活動したいと思う」と回答した保護者の割合は、今まで、家庭教育支援活動の企画・運営経験のある保護者が、経験のない保護者の約2倍である。

→主体的に関わっていける家庭教育の支援活動の在り方を工夫していく必要がある。

・企画や運営の経験がない保護者の中にも、「地域のために活動したいと思う」と前向きに回答している保護者が約20%いる。

→こうした思いをもつ保護者が活躍できる場をつくることも重要である。

④地域での学習機会への参加希望の有無

・今後、地域における家庭教育を学習する機会に参加したいと思う保護者の約70%が、「地域のために活動したい」という支援側に立つことへ意欲的である。

→保護者の年齢が重なるにつれ、また地域での活動の参加経験を重ねるにつれ、地域活動の意義や重要性が理解されていくと考えられる。地域活動に参加しやすい工夫を考えることが大切である。

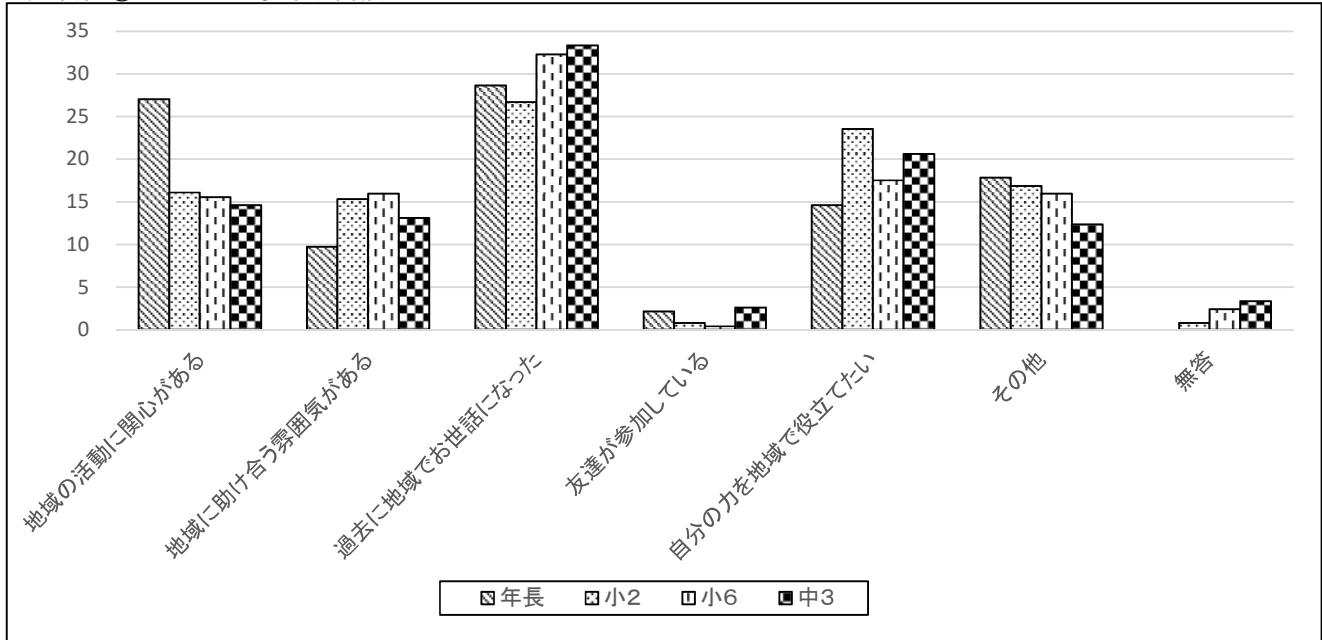
→地域において家庭教育支援活動を実施する際の人材確保は、「地域での親の学び研修会や講座」の参加者への声かけや働きかけにより、前向きな保護者の協力を得ながら活動の輪を広げていくことが大切である。

◆【地域における家庭教育に関する活動への参加を希望する理由】

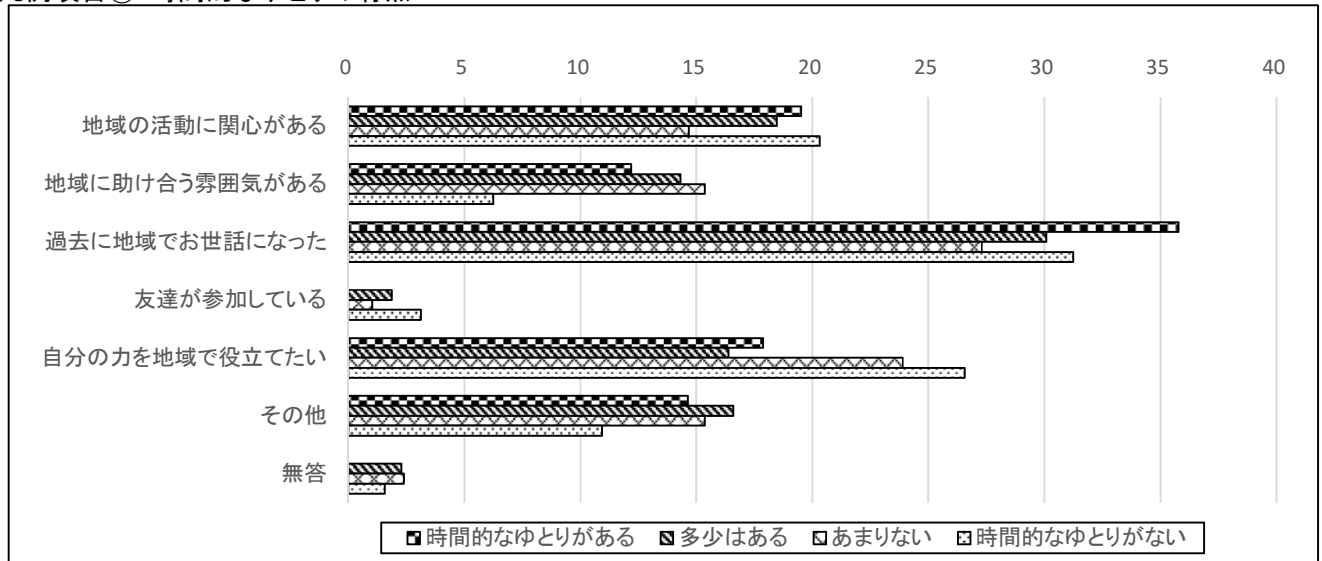
→今後、地域における家庭教育支援活動をしたいと思う理由で一番多いのは、「過去に地域でお世話になったので自分にできることをしたい」である。

問39 今後、地域において家庭教育に関する支援(子育て関連の講座・意見交流会・体験教室・PTA活動・相談活動など)を手伝ったり協力したりして、「地域のために活動をしたいと思う」のは、なぜですか。

凡例項目①: 子どもの学年(年齢)



凡例項目②: 時間的なゆとりの有無



＜考察＞

①子どもの学年(年齢)

・年齢を問わず、家庭教育に関する支援活動をしたいと前向きに思っている保護者の理由で、一番割合の高いのが、「過去に地域でお世話になったので自分にできることをしたい」という思いである。

・年長児をもつ保護者の約27%が、「地域での活動に関心がある」と答えており、中学校3年生の子をもつ保護者の約34%が、「過去にお世話になったので自分にできることをしたい」と答えている。

②時間的なゆとりの有無

・時間的なゆとりがない保護者の中でも、「過去にお世話になったので自分にできることをしたい」と思っている人の割合は30%を超えている。

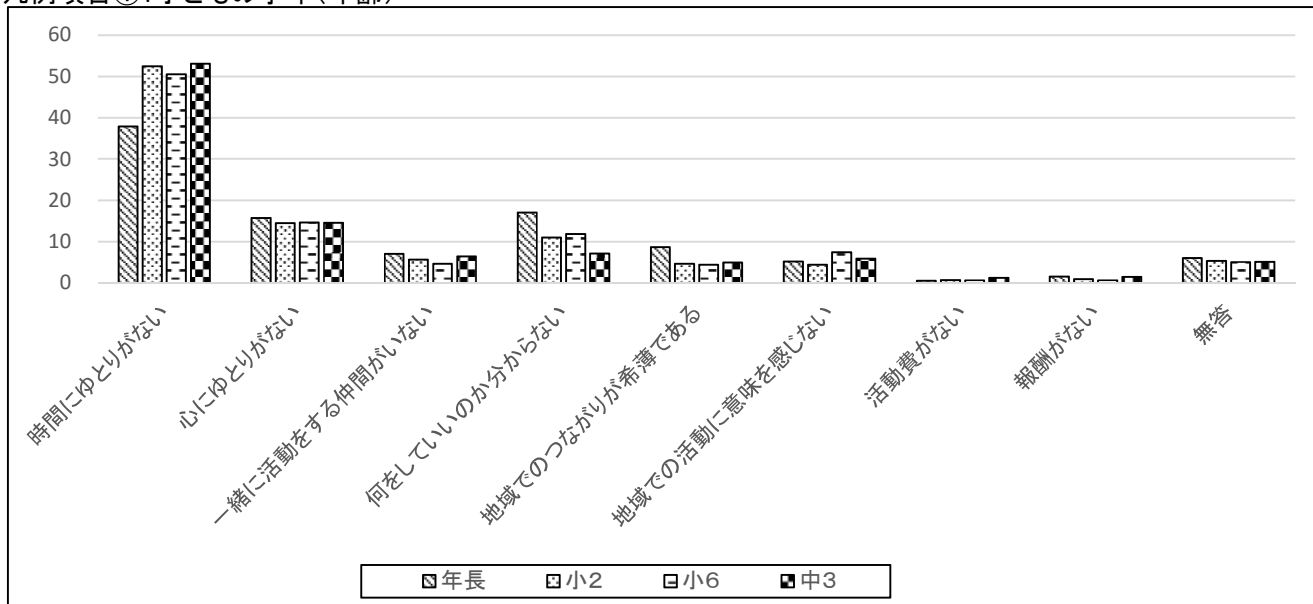
→子どもが小さい時から地域が家庭を積極的に支援すれば、保護者の意識は少しずつ地域に向くようになると考えられる。また、保護者が、支援を受けたり支援活動に参加したりしながら仲間を増やすことで、家庭教育の支援活動を支える側に回れるような体制づくりを考えることも重要である。

◆【地域における家庭教育に関する活動への参加を希望しない理由】

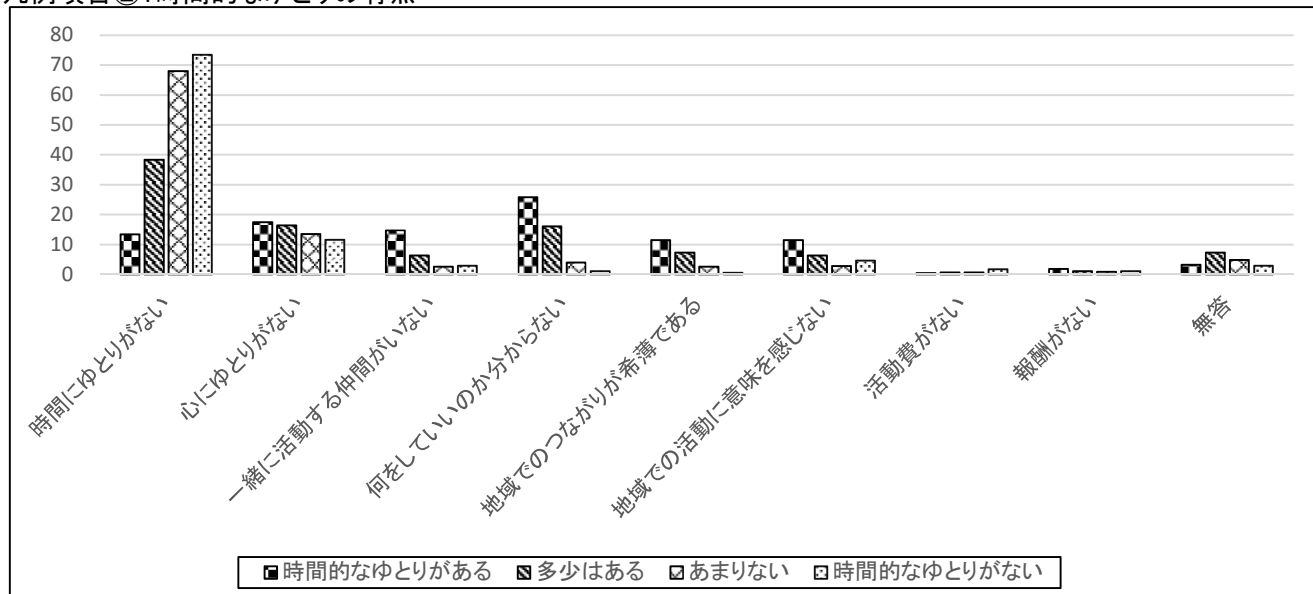
→今後、地域における家庭教育支援活動をしたくないと思う理由の多くは、「時間や心にゆとりがない」ことである。

問40 今後、地域において家庭教育に関する支援(子育て関連の講座・意見交流会・体験教室・PTA活動・相談活動など)を手伝ったり協力したりして、「地域のために活動をしたいと思わない」のは、なぜですか。

凡例項目①: 子どもの学年(年齢)



凡例項目②: 時間的なゆとりの有無



<考察>

①子どもの学年(年齢)

・今後、地域における家庭教育に関する支援活動に携わりたくない理由で最も多いのは、「時間にゆとりがないこと」である。「何をしたいのか分からない」については、年長児をもつ保護者が約17%、小学校2年生・小学校6年生の子をもつ保護者が約11%、中学校3年生の子をもつ保護者が約7%であり、学年が上がるにつれ減少している。

②時間的なゆとりの有無

・時間にゆとりがある保護者においては、「何をしたいのか分からない」「心にゆとりがない」と感じている割合が高い。さらに、「一緒に活動する仲間」や「地域でのつながりの希薄さ」を理由にあげている割合も時間的にゆとりがない保護者に比べて高い傾向がある。

→子どもが小さい時から保護者に対して地域とどのように関わっていけばよいか情報提供をしていけば、地域活動のイメージをつかみやすくなり、地域参加を促すことができると思われる。

→保護者が生活をしていく上で心のゆとりがもてるよう、身近で気軽に立ち寄れる場所や学びの機会を設定したり、職場において家庭教育を支援する環境づくりの大切さを啓発したりすることも必要となる。